



一般社団法人 PMI日本支部

〒103-0008
東京都中央区日本橋中洲3-15 センタービル3階
<https://www.pmi-japan.org/>
info@pmi-japan.org

PMI日本支部 アニュアルレポート 2025



商標等について

「PMI」とPMIのロゴ、「CAPM」、「CHOOSE YOUR WOW!」、「DISCIPLINED AGILE」、「OPM3」、「PMP」、「PgMP」、「PM NETWORK」、「PMBOK」、「PMI PROJECT MANAGEMENT READY」、「PMI TODAY」、「PMI-ACP」、「PMI-PBA」、「PMI-RMP」、「PMI-SP」、「PMO OF THE YEAR」、「PROJECT MANAGEMENT JOURNAL」、「PROJECTMANAGEMENT.COM」、「PULSE OF THE PROFESSION」は、Project Management Institute, Inc.、(以下 PMI, Inc.)の登録商標です。



会長メッセージ

PMIとは

Project Management Institute, Inc.は、1969年に米国ペンシルバニア州で設立されたプロジェクトマネジメントに関する非営利の専門家団体です。プロジェクトマネジメントの実務慣行と科学的かつ適切な適用を推進するという目的を掲げています。2025年12月末時点で世界中に77万人以上の会員を擁し、約100か国に300支部を展開するグローバルな組織です。

PMBOK®ガイド等のPMI標準は、広く世界中の専門家の支持を集めています。また、PMP®など一連の認定資格を提供しており、世界のPMP®資格者数は165万人を超えました。さまざまなイベントやセミナー、eラーニングコースなど、能力開発の機会を提供するとともに、世界の動向を調査分析し積極的な情報発信を行っています。さらに、多方面にわたる活動を通じて、プロジェクトマネジメントへの理解と関心を高め、専門家としての成長を後押しするとともに、企業や組織の事業上の成功に貢献すべく価値提供を続けています。

PMIの活動の多くは、世界各国支部のボランティアによって実施され、新しい仲間と出会いネットワークを広げ、知識と経験を共有する場になっています。

PMI日本支部とは

1998年にPMI,Inc.の支部として「PMI東京支部」が設立されました。その後、2009年に「一般社団法人PMI日本支部」として組織基盤を整えました。PMI,Inc.と理念を共有しその方針や規則に則った活動を展開する契約を締結して、PMI日本支部を名乗ることを許された日本の法令に基づく団体です。PMI,Inc.から会員管理などさまざまな支援と指導を受け、世界の支部と交流しながらプロジェクトマネジメントの発展と普及に努めています。

2025年末の会員数は7,480人と前年から960人増加しました。標準的な支部の活動を大幅に上回る独自施策を多数展開して、PMI,Inc.および、多数の支部から注目を集めています。日本国内のPMI会員16,900人およびPMP®等の資格者53,000人に向けた情報発信も行っています。

さらに、会員ボランティアと法人スポンサーに支えられて、多数のイベントを開催しています。研究会や委員会などの部会活動に多くの会員が参加し、自由闊達な議論と幅広い知識と経験の共有を進めており、他支部にはないPMI日本支部独自の運営形態が定着しています。近年は非会員も参加できるオープンなコミュニティを創設し、幅広い方々との交流を通じて新たな活動の輪を拡大しています。

また、常勤職員による事務局体制を整備して安定的な会員サービスを提供しています。

2025年末、日本支部の会員数は7,480人に達し、1年間で960人増というかつてない成長を記録しました。支部活動にご参加いただいた会員の皆さま、継続的なご支援をいただいた法人スポンサーの皆さま、そしてすべての関係者の皆さまに心より感謝申し上げます。この結果は、日本におけるプロジェクトマネジメントの位置づけが新たな段階に到達した証であろうと考えております。2025年には従来にもまして支部活動やイベントを充実することができました。

PMI日本フォーラム、PMI Japan Festaに加えて、PM Awardが日本支部の3大イベントとして定着し、PM Award 2025最優秀賞選出にあたっては1,400人の会員に投票いただきました。PMBOK® 詳細解説セミナーやPMI標準を解説する標準セミナー、多様な講師にご登壇いただく月例セミナー(2026年度からはディスカバリー セミナーに改称)、全国6か所で開催した地域セミナーにも多数のご参加を賜りました。中部ランチ創立10周年記念セミナーおよび、関西ランチ創立15周年記念PMわくわくフェスは、多くの皆さまのご尽力により両ランチの地域に根差した自律的な発展を示す機会となりました。

さらに、研究会に加えて、非会員の方々も交えたコミュニティ活動を通じて多角的にプロジェクトマネジメントに関する議論を盛り上げることができました。委員会活動も拡大し、多数の会員ボランティアの皆さまに積極的に参画いただいて、多様なイベント開催と情報発信、他の組織・団体との連携強化を進めることができました。

近年注力してきた若年層向け施策も定着し、30代以下の会員が急増し、上昇を続けていた会員の平均年齢が顕著に低下しました。「はじめてのプロジェクトマネジメント研究会」では、若手会員の皆さまによる自発的な活動が軌道に乗り、新展開に期待が膨らみます。

このような若年層の増加は、新入会員のPMP資格への関心増大からも読み取ることができます。2025年末、日本のPMP資格者数は53,132人(前年比4,728人増)と大きく伸びている中、新入会員の約半分が1年以内にPMPを取得しています。日本におけるプロジェクトマネジメントおよびPMPに対する認知度、必要性が高まっていると考えられます。

一方、PMI Inc.は2024年に価値を重視する「プロジェクト成功の定義」を打ち出し、そのような環境下でプロジェクトマネジャーに求められる振舞いとしてM.O.R.E.を提唱し、高い視座、広い視野を持ったプロジェクトマネジャーの育成に注力しています。このような時代の要請に応えるべく2025年にはPMBOK®ガイドが改定され第8版が発行されました。

日本支部は成長とともに会員のみならず社会に対して、より大きな責任を果たすべき段階に入りました。グローバルな潮流を読み解き、プロジェクトマネジメントの観点から日本社会の発展に貢献するため、さらに多くの方々との連携を深めていきたいと考えております。

一般社団法人PMI日本支部
会長 端山 毅



CONTENTS

PMIとは	2	会員向けサービス	22
PMI日本支部とは	2	個人会員制度	22
会長メッセージ	3	法人スポンサー・プログラム	24
Photo Gallery 2025	4	アカデミック・スポンサー・プログラム	25
2025年のトピックス	6	行政スポンサー制度	26
日本フォーラム2025	6	支部活動紹介サービス	27
Japan Festa 2025	8	PMI日本支部の組織	28
PM Award 2025	10	部会活動	30
海外イベント総括	12	部会横断活動	30
学生向けHuman Library	14	全国の支部会員による活動	32
次世代リーダー版LM2025	15	関西ランチ所属支部会員による部会活動	35
中部ランチ創立10周年記念イベント	15	中部ランチ所属支部会員による部会活動	36
関西ランチ創立15周年記念 ～PMわくわくフェス～	16	法人スポンサー社員による活動	37
PMI・PMI日本支部・AI@Work 共同主催イベント	17	コミュニティによる活動	38
PMoA(Project Management of Arts)	17	各種セミナー	40
ゲームで遊んで学ぶプロジェクトマネジメント	18	外部講師招請によるもの	40
関西ランチ成果発表会	18	理事・部会メンバーが講師を務めるもの	41
はじめてプロボノを依頼するNPOのための 課題言語化ワークショップ	19	情報発信	45
はじめてのプロジェクトマネジメント研究会	19	販売図書	47
中期3か年計画	20	決算報告	48
		2025年度 理事・監事・アドバイザー名簿	49
		スポンサー一覧	50

Photo Gallery 2025



6月度
法人スポンサー
連絡会
2025.06.24



次世代 LM2025
2025.05.24



PM Award
2025



Japan Festa
2025



PfmPgm
研究会
20周年記念
イベント



日本フォーラム
2025.07.12



LM2025
2025.09.06-07



部会リーダー
交流会



Photo Gallery 2025

2025年のトピックス

PMI日本フォーラム2025

日程 : 2025年7月12日(土)～8月31日(日)
 テーマ : プロジェクトトランスフォーメーション
 ～次世代プロジェクトマネジメントの探求～
 講演形態 : オンライン配信(リアルタイム、オンデマンド)、
 一部会場開催
 会場所在地 : 富士ソフトアキバプラザ 5F アキバホール
 〒101-0022 東京都千代田区神田練堀町3

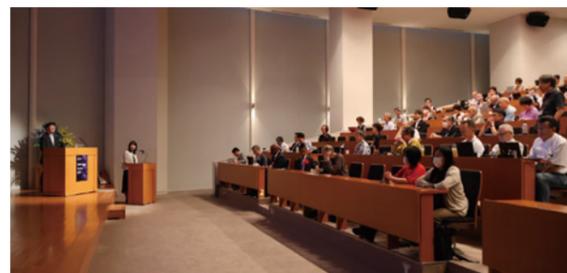


講演形態 : 講演数 : 全75セッション

【基調・招待講演】7月12日(土)、13日(日)	●基調・招待講演	12
●会場での開催 : 2025年7月12日(土)	●研究報告講演	
●リアルタイム配信 : 2025年7月12日(土)、13日(日)	: 部会	44
●オンデマンド配信 : 2025年7月14日(月)～8月31日(日)	: 法人スポンサー SG	2
【部会・スポンサー・アカデミック講演】	: スポンサー企業様	6
●オンデマンド配信 : 2025年7月14日(月)～8月31日(日)	●アカデミック講演	7

2025年のPMI日本フォーラムのテーマは、「プロジェクトトランスフォーメーション ～次世代プロジェクトマネジメントの探求～」。

5年ぶりに会場開催となった2024年に続き、2025年も会場開催とリアルタイム配信のハイブリッド形式で実



施しました。会場は秋葉原周辺で最大級の広さを持つホールとしました。PMI本部の理事会議長であるIke Nwankwo氏による基調講演を皮切りに、各界からお招きした招待講演、過去1年間の熱心な調査・議論に基づく多くの研究報告講演、学術研究の現状と未来等、多種多彩な講演により盛況裡に終了することが出来ました。

【基調・招待講演】

PMI本部の理事会議長であるIke Nwankwo氏からは「Transforming Project Management with Generative AI: Unlocking Productivity and Leadership」と題した基調講演がありました。その後、11人の国内識者から、インクルーシブデザイン、ITコーディネータ、ベンチャー、

日時	No	講演者	所属組織	講演タイトル
7月12日(土)	1	Ike Nwankwo 氏	The Chair of the PMI Board of Directors	Transforming Project Management with Generative AI: Unlocking Productivity and Leadership
	2	平井 康之 氏	九州大学 大学院 芸術工学研究院 教授	インクルーシブデザインにおけるプロジェクトマネジメント
	3	野村 真実 氏	特定非営利活動法人ITコーディネータ協会 会長	『ITコーディネータ プロセスガイドライン』改訂の背景
	4	沢村 澄子 氏	書家	未完の先へ
	5	久保 駿貴 氏	株式会社ABABA 代表取締役社長	地方発!ベンチャー企業の成長&拡大戦略
	6	齋藤 渉 氏	ALSOK株式会社 常務執行役員 CIO	ユーザ企業が持つ「型」と社外に求める「型」～警備業・関連サービス事業者が目指すIT投資～
7月13日(日)	7	神谷 涉三 氏	株式会社Imbesideyou 代表取締役社長	米国インド移民のためのAIと人間のハイブリッドメンタルヘルスケア
	8	島田 由香 氏	株式会社YeeY 共同創業者/代表取締役	働く人の幸せが組織を変える～ウェルビーイングの力とは?～
	9	沢渡 あまね 氏	あまねキャリア株式会社 代表取締役CEO	ネガティブ・ケイパビリティおよびプロジェクトマネジメントが果たす役割
	10	和田 昌之 氏	富士通株式会社 SVP, Corporate Digital 本部 本部長	トランスフォーメーションを牽引する:社内IT部門の変革ジャーニー
	11	Ashutosh Singh 氏	一般社団法人パタンジャリ・ジャパン・ファウンデーション 代表理事&チーフ世話オフィサー	プロジェクトマネジメント、イノベーション、ウェルネスでつなぐ天竺(インド)と日本の未来
	12	石崎 浩之 氏	マレーシアBrainstorm SEA, Inc. 創業者兼マネージングディレクター	マレーシアからの視点で見るグローバル教育&ビジネスと国際キャリア形成

IT投資、AIとメンタルヘルスケア、ウェルビーイング、ネガティブ・ケイパビリティ、経営とITの一体化、グローバル教育、変化の受容などをキーワードとする興味深い講演をいただきました。

【アカデミック講演:オンデマンド配信】

アカデミックトラック7編では、デジタル化社会に対応したPM教育が中心テーマとなり、生成AIやRAG (Retrieval-Augmented Generation) 型AIを活用した自律学習支援の可能性が示されました。さらに、地方創生や社会課題解決を目指す産学連携の実践事例も紹介され、AI活用と社会連携を強化する今後の教育の方向性が示唆されました。

【研究報告講演:オンデマンド配信】

研究報告講演では、AI活用や人的資本育成、SDGs、医療・行政・教育でのPM事例など、多角的な最新動向が示されました。アジャイルやPMO運営に加え、EQ(感情知能)や人間力といった非定型要素の重要性も強調され、若手育成や地域連携を含む、人と組織の成長と社会価値創出を目指す姿勢が浮き彫りとなりました。

生成AIを含むAI技術がプロジェクトマネジメントに与える影響やその活用方法のほか、SDGsをテーマにした講演が多く見られ、持続可能な社会に向けたプロジェクトマネジメントの重要性が強調されました。また、DX時代におけるプロジェクトマネージャーの自己変革やリスクリング、ビジネスモデルキャンバスやAI活用型ツールなど、効率的なPM実践を支える新しいツールや手法も紹介されました。

【スポンサー講演:オンデマンド配信】

協賛企業様による6編の講演では、ハイブリッド型PMの誤用による失敗とテラリングの重要性、人材多様性を可視化するタレントマネジメント、DX推進における協働とビジネスアナリシスの有効性が示されました。週休3日制での成果維持や心理的安全性の確保、R&Dと営業連携、PMO改善事例も紹介され、理論と実践の融合、人材育成、働き方改革、組織連携が今後の鍵として示されました。

【受講規模】

全講演のオンデマンド聴講期間を前年と同様に8月31日まで設けた結果、最終的には910名を超える方々から受講申し込みをいただきました。

- 日本支部会員 451名
- アクティブメンバー 182名
- 法人スポンサー企業社員 77名
- 一般の方 104名
- その他理事・監事、ご招待者など

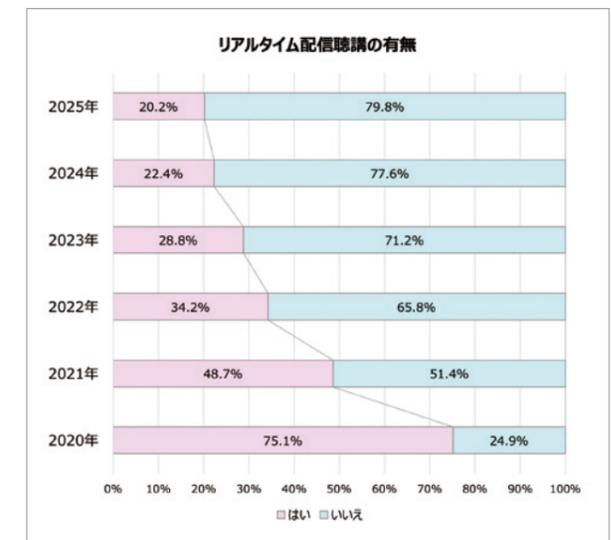
県別に見た受講地域は例年と同じ傾向で、関東圏が圧倒的に多いものの、北海道から九州に至るまで多くの地域からの聴講いただきました。また、海外からは米国、インド、インドネシアの3ヶ国から聴講がありました。

【評価】

総合的には「大変良かった」58.1%、「良かった」41.5%で計99.6%となり、極めて高い評価をいただきました。特に「大変良かった」は2021年以降漸増傾向にあります。

【リアルタイム配信とオンデマンド配信】

2020年から始めたオンデマンド配信は聴講いただく方が毎年増加しています。そのため、リアルタイム配信を聴講する方は逆に漸減傾向にあり、2025年は全体のちょうど2割となっています。



【展示ブース】

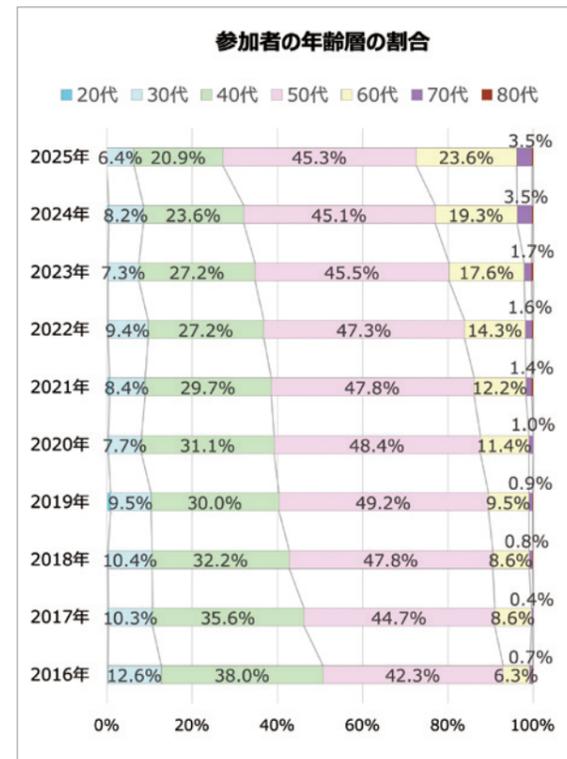
2019年を最後に途絶えていた「スポンサー企業様による展示ブース」を6年ぶりに復活させました。4社の展示ブース担当者との活発な会話は懐かしい情景でした。



2025年のトピックス

【参加者の年齢構成】

参加者の年齢構成からは、参加者層の高年齢化がますます進んでいることが伺えます。



【交流会】

2024年に5年ぶりに開催した会場での交流会は大好評をいただきました。2025年は前年を上回る150余名の方々に参加いただきました。



【まとめ】

2024年11月の「Festa 2024」に続き、2025年7月の「日本フォーラム2025」はJR秋葉原駅近の「アキバプラザ」にて開催しました。「フォーラムの講演会場としてふさわしい」とのコメントもいただけた一方で、展示ブースの周辺に手狭感など、いくつかの反省もあります。

2026年も今回の反省点のほか皆さまからいただいたご意見等も参考にしながら、より魅力的なイベントにすべく検討を進めてまいりますので、どうぞよろしくお願いたします。

PMI Japan Festa 2025

- 日程 : 2025年11月22日(土)～12月21日(土)
 テーマ : 揺らぐ時代をプロジェクトの力で切り開く
 ～日本型PMの再起動と、世界へつなげる挑戦～
 講演形態 : リモート配信
 2025年11月22日(土)～12月31日(水)
 全10講演
 ① 会場+リアルタイム配信 11月22日(土) 5講演
 ② リアルタイム配信 11月23日(日) 5講演
 ③ オンデマンド配信 11月24日(月)～12月31日(水)



17回目を迎えた2025年のPMI Japan Festa。テーマは「揺らぐ時代をプロジェクトの力で切り開く～日本型PMの再起動と、世界へつなげる挑戦～」です。いま求められるのは、変化を機会ととらえて成果へつなげる力。そのために重要なのが、共に考え、対話を重ね、最適解を探し続ける「ホスト」としてのリーダーシップであり、

それこそが、日本型PMが持つ協調性を再起動し、世界へ広げていく力になります。

2025年も2日間のうち、1日目を会場とオンラインのハイブリッド開催とし、オンラインの良さと現地ならではの醍醐味をご提供できるようにしました。また、「PM Award 2025」の最優秀賞(Small & Medium部門、

Large部門)受賞者による講演も恒例となり、これらを含めた10組の各界のリーダーのご登壇で、今年も成功裡に終わることが出来ました。

11月22日・23日以降、12月21日(日)までのオンデマンド

ド配信を含めて計367人の方が聴講されました。聴講者は全国28都道府県にわたり、米国在住者にも聴講いただいています。

講師一覧

日時	No	講師	所属	講演テーマ
11月22日(土)	1	若杉 忠弘 様	グロービス経営大学院 教員/シニア・ファカルティ・ディレクター	燃え尽きずに成果を出すセルフ・コンパッションの技術
	2	宇野 智之 様	株式会社モンスターラボ 取締役	The Power of Borderless — 越境から生まれる価値と未来
	3	伊藤 大輔 様	プロシアホールディングス株式会社 代表取締役社長	元サラリーマンPMが1人起業し総年商●●億・総社員●●●名の経営者に — プレイクスルーした「PM+Xスキル」
	4	山田 淳 様	株式会社フィールド&マウンテン 代表取締役	日本の自然の価値を世界へ — その組織づくりと私の挑戦
	5	井口 恵 様	株式会社Kanatta 代表取締役社長	ドローンと宇宙に挑む女性コミュニティの軌跡 — 逆境を力に変えるマネジメント術
11月23日(日)	6	森 隆信 様	株式会社瀬戸酒造店 代表取締役	千鳥足ぐらいがちょうどいい、これからの時代のリーダー像
	7	榊巻 亮 様	ケンブリッジ・テクノロジー・パートナーズ 代表取締役社長	プロジェクト成功の“最後のピース” — 変革を導く「X人材」の本質に迫る
	8	近藤 佑太郎 様	株式会社Unito 代表取締役	大手企業と共創し、ビジョンを実現する — スタートアップ企業Unitoが実践するホスト型リーダーシップとは
	9	武田 正文 様	浄土真宗本願寺派 高善寺(島根県邑南町) 住職	AIと他力 — 予測不能な世界を生き抜く仏教的思考法
	10-1	PM Award 2025 Small & Medium部門 横山 暁一 様	合同会社en.to 代表社員	en.to(えんと):縁を育み地域と人をつなぐ、滞在型交流拠点プロジェクト
10-2	PM Award 2025 Large部門 大竹 尚登 様	東京科学大学 理事長	東京医科歯科大学と東京工業大学の統合による「東京科学大学」の設立	

【運営面での趣向】

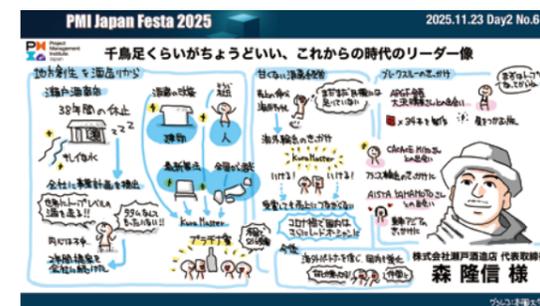
企画・運営にあたるセミナープログラムのメンバーの準備活動の様子などをコンパクトにまとめた動画や、グラフィックレコーディングは今年も好評いただきました。



開幕時の放映動画



会場でのスタッフ一同



グラフィックレコーディングの例



2025年のトピックス

【日本支部内外の他のイベントとのコラボレーション】

2024年に引き続き2025年もPM Award とのコラボレーションを行い、PM Awardでの2部門（Small & Medium部門、Large部門）におけるそれぞれの最優秀プロジェクト受賞者から、プロジェクトの内容をご紹介いただきました。

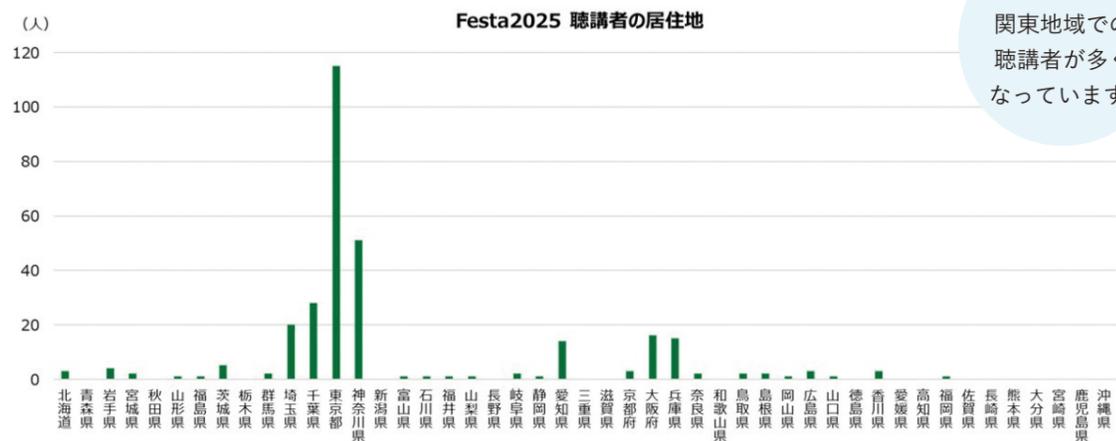
【交流会】

初日の5講演終了後に交流会を開催し、講師の方々にも参加いただき楽しく歓談いただきました。



【聴講者のご意見、聴講地域などの特徴】

アンケート結果から満足度を見ると「大変良かった」と「良かった」の合計は98%を超えており、例年どおり高い評価をいただきました。



〔いただいたコメントの一例〕

- わくわくしながら、聞くことができました。ありがとうございました。
- 実践的な事例紹介が多く、IT以外の業種/業界のお話も聞けるのは嬉しい
- 全て参考になるお話でした。特に若手の皆さんが新しいことに積極的にチャレンジしていることが印象的でした。
- 常に時代の新しい刺激を受けています。

【総括】

2024年に続き、コロナ禍以降で2回目の会場開催となったJapan Festa 2025。リモート配信を含めたハイブリッド形式の運営も、スタッフ一同で円滑な要領を体得した感があります。また、今年は新たな若いスタッフも複数名加わり、ボランティア活動そのものも活気を呈してきました。

2026年のJapan Festa 2026にご期待ください。

2025年も「Small & Medium部門」、「Large部門」の2部門で募集を行い、ご応募いただいたプロジェクトから8件のプロジェクトをファイナリストとして選出しました。また、ファイナリスト・ピッチには1,855名が視聴登録、投票には2部門とも約1,400名の方がご参加くださいました。なお、表彰式および、

受賞記念パーティーには多数の各受賞企業・団体の方々、関係者にご来臨いただき、受賞を祝っていただくことができました。

表彰式では、最優秀プロジェクト賞2件、優秀プロジェクト賞8件、特別賞4件、奨励賞2件が授与されました。

「PM Award 2025」における受賞プロジェクト、企業・団体 Small & Medium 部門

受賞名	受賞プロジェクト名	主体企業・団体
最優秀プロジェクト賞	en.to(えんと):縁を育み地域と人をつなぐ、滞在型交流拠点プロジェクト	合同会社 en.to
優秀プロジェクト賞 特別賞〔パーソル総研 well-being賞〕	PACIFICO サステナブルWEBデザイン ~環境配慮とDXを両立したデザイン実装プロジェクト~	パシフィック横浜(株式会社 横浜国際平和会議場)
優秀プロジェクト賞	シブヤフォント・ご当地フォントにおける共創による共生社会の実現	一般社団法人シブヤフォント
優秀プロジェクト賞 特別賞〔岡山大学SDGsイノベーション賞〕	PP&Mフォーラム:製薬業界をつなぐ共創と学びのCommunity of Practice	PP&M (Project Planning & Management) フォーラム

「PM Award 2025」における受賞プロジェクト、企業・団体 Large 部門

受賞名	受賞プロジェクト名	主体企業・団体
最優秀プロジェクト賞	東京医科歯科大学と東京工業大学の統合による「東京科学大学」の設立	国立大学法人東京科学大学
優秀プロジェクト賞	施設向け食材宅配サービス「ヨシケイキッチン!」福祉業界のニーズをくみ取ったメニュー開発の進化	ヨシケイ開発株式会社
優秀プロジェクト賞 特別賞〔PMI Asia Pacific賞〕	DXリテラシー教育およびマインド醸成プロジェクト	住友重機械工業株式会社
優秀プロジェクト賞 特別賞〔ITI イノベーション賞〕	再生可能エネルギーの活用をサポートし、安心・快適で豊かな社会を実現する次世代蓄電システム開発プロジェクト	オムロン ソーシャルソリューションズ株式会社

「PM Award 2025」における受賞プロジェクト、企業・団体 奨励賞

受賞名	受賞プロジェクト名	主体企業・団体
奨励賞	Students Meet Internationally through Language Education SMILE Project	一般社団法人ことばのまなび工房
奨励賞	共創プロジェクト・学生協働プロジェクト - 広島地元中堅企業4社の新しい価値創造を産学官連携+プロジェクトマネジメントで実現する -	広島県公立大学法人観啓大学

PM Award 2025

PMI日本支部 理事 藤原 慎

PM Awardは、日本に拠点をもち企業・団体による、未来創造に繋がる優れたプロジェクトを表彰する制度として2021年に創設したものです。世界中で社会を変えていく「プロジェクト」が多数行われ、海外ではPMIを中心にさまざまな優れたプロジェクトやプロジェクトマネジメントを実践している企業・団体を表彰する制度が創設されてきています。日本支部においても、PMI本部の協力の下、PM Awardを運営しています。

PM Awardの詳細は、Webサイト (<https://www.pmi-japan.net/>) をご覧ください。

第5回となる「PM Award 2025」は、以下のスケジュールで実施しました。

時期	イベント等
2025/3	開催案内
2025/3~2025/5	応募受付
2025/8	ファイナリスト発表
2025/9	ファイナリスト・ピッチ、ピッチ視聴者による投票
2025/10	表彰式、および受賞記念パーティー

2025年も運営ボランティアをはじめ、多くの方々のご支援とご協力により無事終わることができましたこと、関係者の皆さまにあらためて感謝申し上げます。今後も運営を改善しながら、より多くの方々にご参加いただき、より広くプロジェクトマネジメントの社会的な認知向上に貢献できる取り組みにしていきます。



2025年のトピックス

2025年度 海外イベント総括

2025年もPMI本部主催イベント、PMI北東アジア(R9)地域の各国支部主催イベントなどに日本支部から多くの理事・事務局員並びに戦略委員会のアクティブメンバーが参加し、各国の潮流を感じ取ってきました。またR9ミーティングの日本での開催やPMI AP/SA-LIMでの講演などPMI日本支部からの発信も積極的に行い各国支部との関係性を深めてきました。

Region 9 Meeting

PMI日本支部 副会長 麻生 重樹

PMIは全世界で会員数約77万人という巨大組織のため、いくつかの地域に分割して運営しています。日本支部は、Asia Pacificというブロックの中のRegion9(北東アジア地区:日本支部のほか、韓国支部、台湾支部、香港支部、モンゴル支部)に所属しています。

毎年各支部持ち回りでそれぞれの理事数名が週末の1.5日間一堂に会して、PMI本部運営方針の共有、それに基づいた各支部の運営方針紹介や運営上の課題共有等を行っています。今年は2025年3月15日～16日に日本(兵庫県姫路市)で開催されました。

PMIが掲げる基本方針「We maximize project success to elevate our world. (プロジェクトの成功を最大化することで、世界を向上させる)」の達成のため、2025年発表のM.O.R.E. (「M: 認識の管理」、「O: プロジェクト成功の制御」、「R: 変動要素の再評価」、「E: 視野拡大」)に基づき、各支部の理事が混成チームを作ってチーム編成を変えながら3回議論・発表を行いました。日本の企業もグローバル展開を加速させていると感じています。ここで議論されたこと、構築されたメンバー間のネットワークをさらに強化し情報交換を重ねながら、今後視野を広く持った活動を展開していきたいと考えています。



Region 9 PM Case Competition

PMI日本支部 理事 井上 雅裕

日本支部は、PMI Region 9での「学生プロジェクトマネジ

PMI日本支部 理事 稲葉 涼太

各国のイベントではAIをはじめAgility、Sustainabilityなどがフォーカスされ、世界を大きく変える潮流とプロジェクトマネジメント人材が獲得すべきスキルや課題などについて議論が交わされました。

日本支部では引き続き海外イベントで発信される最新動向や得られた知見を取り入れ、さらなる支部活動の活性化に努めてまいります。

「メント・ケースコンペティション」への参加を企画・実施しました。2025年6月に台湾・台中で開催された決勝には、香港、台湾、韓国、モンゴル、日本の各代表チームが集結しました。日本代表は、国内で英語による予選を勝ち抜いたチームで、留学生を中心とした多様性の高い編成が特徴です。九州の工科大学や高専と連携し、プロジェクト計画のみならずプロトタイプ開発まで行った実践的提案が高く評価され、プロジェクトマネジメント手法の適切な活用と協働の成果として、国際決勝で見事優勝を果たしました。



PMI Global Summit Asia Pacific 2025

PMI日本支部 理事 金子 啓一郎

2025年6月24日から26日、フィリピン・マニラで開催された「PMI Global Summit Asia Pacific 2025」に端山会長とともに参加しました。35か国から350名以上が集まり、「Gather together. Grow together. Guide the future.」をテーマにアジア初のGlobal Summitならではの規模感を体感しました。特に、成長著しいアジア地域の経済規模や人口増加、若手層への期待が強調され、そのエネルギーを肌で感じることができました。また、プロジェクト成功の新たな定義「関係者が労力や費用に見合う価値があると評価すること」を実現するための視点「M.O.R.E.」が解説され、ステークホルダーへの価値提供の重要性が改めて示されました。

次回は2026年6月10日から11日に韓国・ソウルで開催が予定されています。ぜひ参加をご検討ください。

AP-SA LIM (Asia Pacific-South Asia Leadership Institute Meeting) 2025

PMI日本支部 理事 坂上 慶子

AP-SA LIMは、アジア太平洋・南アジア地区の各支部から理事を主体とするボランティアリーダーが集い、PMIの新たな戦略の展開や支部運営に関するノウハウの共有、リーダー間PMI Nextの取り組みとして、PMI調査によるプロジェクト成功の再定義や、プロジェクト価値を最大化する「M.O.R.E.」の共有がありました。変化の激しい現代にPMが価値を生むために重要な考え方は、

日本支部からは2件の発表を行いました。日本支部の会員数増の現状と施策や工夫についての報告と、日本支部でのマンガ制作・活用です。特にマンガの活用は活発に質問があり聴講者の関心の高さがうかがえました。

日本支部ではLIMを通じて知見や繋がりを得て、より良い活動に繋げてまいります。

モンゴル支部 kongress

PMI日本支部 副会長 麻生 重樹

2025年10月15日にPMIモンゴル支部の年次総会が開催され、日本支部を代表して参加してきました。この時期、既に最低気温は-20℃(最高気温も氷点下であり世界で最も気温の低い首都だそうです)でしたが、500名近い参加者には若手が非常に多くまた、女性比率が7割程度を占め会場は熱気にあふれていました。

特徴的だったのは、基調講演と同じテーマでのパネルディスカッションが交互に実施されるという構成です。テーマは、モンゴルという国の課題にフォーカスしたものが多く、愛国心と自国の将来を真剣に捉えている人が多いという印象で、今、成長期にある国の勢いを感じました。また、パネリストも企業のCEO、財務省の副大臣、金融機関のCEO等が登場され、PMが国の発展の推進力になっている状況を強く感じました。日本支部も次世代に向けて、参考になると感じた点を取り入れてますます発展させていきたいと考えています。



台湾支部 kongress

PMI日本支部 理事 水井 悦子

2025年11月8日～9日に台北市で開催されたPMI台湾支

部国際ナショナル・ kongressに参加しました。本イベントは「プロジェクト・バリューチェーンの新たな未来をリードする」と題し、AI、サステナビリティ、ドメイン横断イノベーションをテーマに実施されたものです。

今回は台湾支部のStudent Club 立上げイベントも並行して開催され、延べ400名以上の参加者の中に多くの大学生が含まれていたのが印象的でした。また、若手経営者によるパネルディスカッション「AI時代のプロダクト開発とプロジェクトマネジメント」では、AI活用による効率化と価値提供の実現に向けた課題が共有されました。日本でも同様のテーマが議論されており、今後は、近隣支部との連携をさらに強化し、相互に学びや気づきを得られる機会や協働の場を構築できればと考えています。



香港支部プロジェクトマネジメント・kongress

PMI日本支部会長 端山 毅

2025年11月15日、香港サイエンスパーク内のCharles K. Kao Auditoriumにおいて、PMI HK Asia Pacific Project Management Congress 2025が開催され参加しました。これまでも香港支部関係者と交流する機会はありませんでしたが、現地香港支部を支える多くの人々に会うと、これまで見えなかったものが多数見えてきました。

AI活用が主要な話題でしたが、新技術をビジネスにどう活用していくのか、多面的な議論が行われていました。講演内容は香港の主要産業が金融であることを示しており、例えば、Stable Coin導入プロジェクトのパネルがありました。若手の活力、リーダーシップにも目を見張るものがあり、自律的キャリア形成に対する強烈的な意思を感じると同時に、そうせざるを得ない社会環境の厳しさも感じました。



Global Summit 2025

PMI日本支部 理事 藤井 新吾

PMI Global Summit 2025 は 11月に米国フェニックスで開催され、世界各国から多様なプロジェクトマネジメント人材が集結しました。本年は "More Together" をテーマに、PMI NEXT 戦略の進展、Project Success の新しい捉え方 (MORE フレーム) や、AI との協働を前提とした次世代の実践力強化など、コミュニティとしての価値創出を高める取り組みが前面に打ち出されました。特に、ボランティアこそ PMI の原動力であるという強いメッセージのもと、世界の支部活動の成果共有と連携促進が進み、AI活

用では PMI Infinity や AI 教育プログラムの実装事例が紹介されました。さらに、社会的価値創出とサステナビリティの観点では、地域コミュニティ支援、教育支援、社会課題解決に資するプロジェクトの優良事例が多数共有され、学び合い・結び合う場としての Summit の役割が一層強化されました。

加えて、「Phoenix」を象徴する「再生・変革」を背景に、ボランティアの貢献を称えるセッションや、MORE フレームを活用したプロジェクト成功の議論、Infinity や AI ラーニングを含む最新イニシアチブの共有など、世界の実践を直接体験し、国際コミュニティと同じ目線で学び議論できる貴重な機会であることが強調されました。

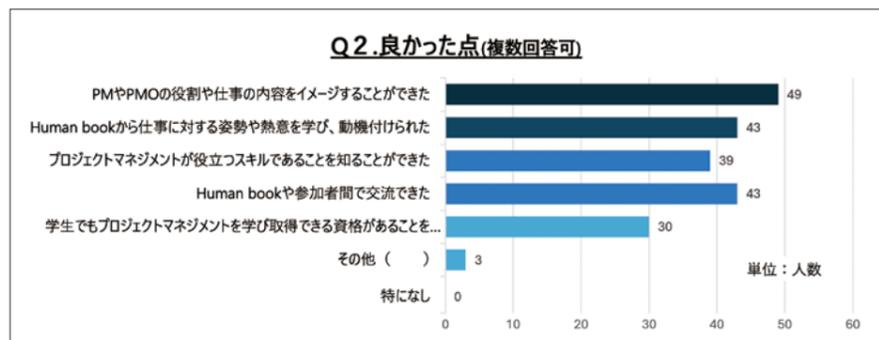
学生向け Human Library

教育国際化委員会では、プロジェクトマネジメント普及活動の一環として、大学生を対象に「Human Library」という新たな取り組みを試行しました。Human Library とは、人を本に見立てて、読者である参加者に貸し出すことで、本である「Human Book」が語る経験や思いを共有し、相互理解を深めることを目指す活動です。今回は、若手プロジェクトマネジャーを Human book として招き、プロジェクトマネジメントの重要性や、プロジェクトマネジャーというキャリアに触れてもらうイベントを二つ企画しました。

一つ目は企業との連携による東京での開催、二つ目は大学との協働による福岡での開催です。延べ52名の学生が参加し、12名の Human book がそれぞれのストーリーを語りました。各イベントでは、一人の Human book に対して4名前後の読者が集う30分のセッションを4回実施しました。参加学生からは、就職イベントとの違いに戸惑いながらも、プロジェクトマネジメントや職業としてのプロジェクトマネジャーへの関心が高まったとの声が寄せられ、

PMI日本支部 理事 水井 悦子

満足度の高いイベントとなりました。当委員会では、将来的な不足が懸念されるプロジェクトマネジメント人材の育成に向け、教育普及に引き続き取り組んでいきます。



次世代リーダー版 LM2025

PMI日本支部 理事 杉原 秀保

若手層を対象に PMI や日本支部の方向性を共有・議論し、参加者のリーダーシップを育成することを目的に2024年度から開催しています。初年度に引き続き渋谷 SOLASTA にて半日で開催し、25名の方々に参加いただきました。基調講演で PMI Asia Pacific の Yolanda Kim さんからアジア各国における活動計画や若手 PM の活動内容について説明がありました。講演後は多くの質問があり、PMI の戦略やアジア各国の活動事例に対する関心の高さを感じました。その後のワークショップでは2つのテーマ「次世代 PM の意見をまとめて PMI 日本支部に届けよう」、「研究会・コミュニティを進化させるためのアイデアを考えよう」をブレインストーミング、親和図、KPT法を用いて議論し、4グループに発表していただきました。提示された貴重なアイデアは2026年の改善に活かしていきます。

で開催。美味しい料理とお酒で、参加者間の交流も深まり非常に盛り上がりました。

アンケート結果では参加者の9割以上が「大変良かった」と高評価でした。2026年以降も皆さんに喜んでいただけるイベントとなるよう企画・運営していきますのでよろしくお願いいたします。



中部ランチ創立10周年記念イベント

PMI日本支部 理事 奥田 智洋

中部ランチは、2025年に創立10周年という大きな節目を迎えました。過去10年、プロジェクトマネジメントを中心としたセミナーやサロン形式の対話、さらに地方自治体との連携による地域課題解決の取り組みなど、多くの方々のご協力をいただきながら歩んできました。この場を借りて、心より感謝申し上げます。

長年携わってこられた「きぼう」開発事例を交え、「プロジェクトは成功させるためにある」として、成功への4つの壁、特有の要求事項、それらを満たす設計技術についてお話いただきました。宇宙システム開発は壮大で遠い世界に思えますが、プロジェクトマネジメントが基本にあることを実感しました。

創立10周年を祝うとともに、中部地域を中心にプロジェクトマネジメントに携わる皆さまへ新たな情報を発信するため、「中部ランチ創立10周年記念イベント」を開催しました。多数の参加者に恵まれ、盛大で有意義な素晴らしい会となりました。

◇愛知発のイノベーション創出に向けた取り組み
愛知県経済産業局革新事業創造部
イノベーション企画課の廣江紀之様

講演いただいた内容は以下のとおりです。

愛知県での取り組み事例、その仕組みについてご紹介いただきました。近年のプロジェクトは、単独の企業や一つのチームだけで「価値実現」することが難しい局面が増えています。多様な知見や視点を持つ組織や人が集まり、それらを結集させることが、これからのマネジメントに求められる。それを再認識できる講演でした。

◇有人宇宙システム「きぼう」開発とプロジェクトを成功させるために ~創発から開発、実践、社会実装へ~
名古屋大学非常勤講師 田中秀孝 様

COLUMN

谷口 和行 組織拡大委員会 未来創造WGリーダー/ミッション委員会 委員

未来創造WGに立ち上げ期から関わり、若手向け施策の企画・推進に携わってきました。活動は4年目を迎え、イベントには延べ1,000名を超える方にご参加いただきましたが、実は最も成長させてもらったのは私自身かもしれません。日本支部の魅力は、肩書や年齢を越えて、個人の熱量と「貢献したい」という思いが自然に集まることにあります。40代となった今は、次の世代にリーダーを譲る準備をしつつ、ミドルキャリア研究会の立ち上げにも挑戦しています。若手・ミドル・シニアが世代を越えて学びと経験を共有し、変化を楽しめる場がここにはあります。



◇自律したITベンチャーの創造 ～ITベンチャー創業者として伝えたいこと～

株式会社アイ・ティ・イノベーション
代表取締役社長 林衛様

創業時の想いや歴史についてのお話の中で「永続の哲学」というグループのことがあるとのことでした。また、創業後に直面したリーマンショックや新型コロナウイルス感染症などの苦境を乗り越えた経験を基に、経営者の視点から「大切なこと」を参加者に伝えていただきました。「我慢強さ・しぶとさのこころを持つ」、そして「人に

対しては方向性、信じること、やる気、持久力が重要」という言葉に深く共感しました。



関西ブランチ創立15周年記念 ～PMわくわくフェス～

関西ブランチ 運営委員会 代表 伊達 渡

2024年12月、日本支部関西ブランチは創立15周年という大きな節目を迎えました。2009年12月に国内初のブランチとして誕生した当組織は、現在、運営委員会に加え5つの研究会を抱える、分野や所属の枠を超えた大きなブランチへと成長を遂げています。これを記念して、2025年10月4日にマイドーム大阪にて「PMわくわくフェス」を開催しました。

本イベントのテーマに「わくわく」を掲げた背景には、現場でPMが「大変そう」と敬遠されがちな現状への危機感がありました。PMの苦労だけでなく、その楽しさややりがいも共有し、関西から未来志向のメッセージを発信したいという思いから、PM3団体の垣根を越えて語り合うこの「フェス」を企画しました。

当日は、五感で楽しむ多様なプログラムを展開しました。午前のワークショップでは、PM実践研究会の大西徹氏の進行のもと、参加者が「PMコミュニティで一緒にできたらワクワクすること」を熱く対話しました。続くネットワーキングピニング大会では、自己紹介を交えながら名前を埋めていくゲームを通じ、所属や世代を超えた自然な交流が生まれ、会場は一気に活気づきました。



午前の部:ワークショップ

午後の基調講演では、大阪大学の竹林一氏が登壇。竹林氏は、関西万博や大規模システムの事例をもとに、プロジェクトを「マイナスをゼロに戻す守り」と「ゼロからプラスを生み出す攻め」の両面から解説されました。「一人のPMの主体的な一歩が組織全体の改革につながる」という力強いメッセージは、参加者に未来を切り拓く勇気を与えました。

続く3団体パネルディスカッションでは、PMI日本支部、日本プロジェクトマネジメント協会(PMAJ)、プロジェクトマネジメント学会の代表が一堂に会しました。議論の中では、2024年に提示されたプロジェクト成功の新定義「Value > Effort + Expense (労力や費用に見合う価値の提供)」が紹介されました。これからのPMは、QCD(品質・コスト・納期)の遵守に留まらず、ステークホルダーと共に価値をデザインし、実現プロセスをリードする存在へと役割を広げるべきであるという未来像が示されました。

イベント終了後の交流会も含め、終始「PMだからこそ味わえるおもしろさ」を分かち合う場となりました。15年の歴史を刻んできた関西ブランチは、今回のフェスを新たな出発点として、今後も世代や組織、団体の枠を超えた繋がりを広げ、プロジェクトマネジメントの探求に邁進していきます。



午後の部:3団体パネルディスカッション

PMI・PMI日本支部・AI@Work 共同主催イベント「PM×AIの知見発信」

AI@Work 副代表 武上 八尋

PMI本部の企画・スポンサーシップの下、日本支部として初めて、本部・リージョン・支部・コミュニティが連携する合同イベントを開催しました。「可能性を力へ(From Potential to Power)」をテーマに、AI Engagement & Community Directorを務めるCPMAIの有識者、Kathleen Walch氏による基調講演に加え、AI@Workのリーダー4名が実践的な活動と知見を共有しました。本部より日本の全PMPとPMI会員へ発信された参加募集は、配信後30分で会場定員100名に到達し、参加者の77%は支部非会員となるなど、支部活動と接点が無かったPM層へ新たなリーチを実現する貴重な機会となりました。録画はYouTubeで公開中です。

予定されていたPresident & CEO、Pierre Le Manh氏の来日はご本人の急病により中止となりましたが、日本支部の研究会活動への関心が本企画の発端やCEO承認につながった点は、活動の価値を改めて認識する契機となりました。

AI@Workでは、PMI Global Summit

2024での講演・連携も踏まえ、2025年よりwww(with worldwide)の施策を通じてグローバル連携も強化、CPMAI翻訳ボランティアやAI in PPPM公開コメントへの参画など、WWでの貢献や知見の獲得、有識者との連携を深めてきました。日本のPMI資格者は世界全体の3%未満ですが、世界に開かれたPMIの知見や機会を活かし、日本の発展に寄与する活動を今後も継続していきます。



PMoA (Project Management of Arts)

PMI日本支部 理事 斉藤 学

PMoAは組織拡大委員会のワーキンググループとして、プロジェクトマネジメント視点でのアート・プロジェクトの調査研究を通じて新たな価値創造を目指す活動です。2025年度は日本フォーラムでの会員への啓発活動やアーチプロジェクトを実践する協力団体との協業等を通じてナレッジの蓄積を行いました。なお、2025年度に実施したプロジェクト活動は以下の通りです。



No	活動名	活動内容
1	アートPM勉強会	・メンバー持ち回りでアート・プロジェクト事例の調査結果を発表(2025年度は計3回実施)
2	日本フォーラム2025での啓発活動	・関連する招待講演のアレンジ(インクルーシブデザイン) ・研究活動講演の実施(アートってプロジェクトなの?~アートPMに関するPMoAの調査研究活動のご紹介~) ・会場展示実施(インクルーシブデザイン、書道家・沢村澄子氏作品)
3	ATAMI ART GRANTマネジメント支援	・クラウドファンディング企画・実施サポート ・鑑賞者アンケートの企画・実施 ・アートPMに関する現地フィールドワークの実施 ・芸術祭評価基準の設定と公式資料集の作成サポート
4	ノト・コレカラートプロジェクト推進支援	・ホームページ運営サポート ・現地フィールドワークの実施(輪島市)

COLUMN

渡邊 恒文 元 AI@Work代表

日本支部の活動は、世界標準を日本に落とし込むだけでなく、日本ならではの工夫や気づきを世界へ届ける「往復の場」だと感じています。合意形成を大切に日本の文化や制度の中で培われた実践には、リスク管理やガバナンスの面でも多くの示唆があります。用語委員会や翻訳委員会の活動を通じて、言葉と評価軸をそろえることが、共通理解と倫理を支える基盤になると実感しました。AI@Workで蓄積した知見も、事例として整理し、わかりやすい形で共有することで、次の担い手を育てながら世界標準の議論にもつながっていく——日本支部には、そんな役割が期待されていると考えています。



ゲームで遊んで学ぶプロジェクトマネジメント

はじめてのプロジェクトマネジメント研究会PM普及WGリーダー 渡辺 恵士朗

はじめてのプロジェクトマネジメント研究会PM普及WGでは、初のイベントとして「ゲームで遊んで学ぶプロジェクトマネジメント」を2025年11月に開催しました。

開催にあたり、WGメンバーは事前にプロジェクトマネジメントをテーマとしたゲームの調査・選定を行い、実際に自分たちでゲームをプレイしました。また、参加した方々が効果的に学びを得られるように工夫をこらし、当日の進め方や資料内容などを検討して準備を行いました。

当日は21名（参加者13名+スタッフ8名）で、3グループに分かれてゲームを実施。

単に「楽しかった」で終わらせるのではなく、ゲームの合間に振り返りの機会を設け、成功／失敗の要因や、実際のプロジェクトやPMBOK®ガイドとの共通点／相違点などをチームで議論してもらい、実践的な学びへとつなげました。

ゲームの後はネットワーキングも実施し、大いに盛り上

ることができました！

参加者はPM初心者ばかりではなく、PM普及活動に関心のあるベテランも多く、PMゲームへの注目の高さがうかがえました。

PM普及WGでは、今後もゲームイベントの実施や、PM初心者向けの体験イベントなどを企画・実施していく予定です。ぜひ今後の活動にもご期待ください。



関西ランチ成果発表会

PMI日本支部 理事 杉原 秀保

関西ランチでは、毎年12月に所属メンバーが一堂に会し、各研究会の活動成果を発表する場として、成果発表会を開催しています。2025年は、PM学会やPMAJ等の外部団体の方にも発表いただき、新大阪のニッセイ情報テクノロジー社の会場で開催しました。

本会は、普段接する機会の少ない他の研究会の発表を聴講し、価値観・文化の異なる参加者からの意見により、気付きや価値観の醸成を図る議論の場となっています。また、関西の活動を広く全国一般にも告知し、交流の場として関西ランチが今後さらに発展することを狙っています。

2025年の参加者は65名（内34名がオンライン参加）、

午前・午後にわたり各研究会からの発表に対して活発な質疑応答や意見が交わされました。講演終了後は同会場にて懇親会を開催し、忘年会も兼ねたイベントとしています。

<発表テーマ>

「想定外の出来事（未知の未知）を突破するPMのリーダーシップ（パワースキル）の発揮とEQ（Emotional Intelligent Quotient）向上の検証!」:PM実践研究会、「BAとPMの架け橋-グローバルなエンタープライズアーキテクチャ最新動向」:IT上流工程研究会、「PMAJ PM関西研究会の活動内容と成果物」:日本プロジェクトマネジメント協会、「これまでのPM学会関西支部活動振

り返し」:プロジェクトマネジメント学会、「"QOL as a Product"-医療・介護領域における人間中心プロダクトマネジメントのモデリングによるアプローチ」:医療PM研究会、「最近の生成AI関連の話題の紹介とデモ」:定量的PM事例研究会、「創生研ライブ・今年も対話を楽しもう」:PM創生研究会



はじめてプロボノを依頼するNPOのための課題言語化ワークショップ

PMI日本支部 理事 稲葉 涼太

『はじめてプロボノを依頼するNPOのための課題言語化ワークショップ』を、日本支部主催、認定NPO法人サービスグラント様の後援で開催しました。

これは、プロボノ（専門スキルを活かしたボランティア）の力を借りたいものの、募集要項を適切に言語化することに課題を感じているNPO（社会課題解決に取り組む非営利団体）に対し、スコープ定義や要件定義の専門家である日本支部ボランティアが支援するワークショップです。

本イベントでは、オンラインでの事前説明会・検討会と、対面での本番ワークショップを通じて、NPOが抱える「モヤモヤ」を短時間で棚卸しました。支援ニーズを具体化してスコープを定義し、最終的にプロボノ募集文として完成させました。

当日は14名の日本支部会員が参加し、非営利法人3団体様にヒアリングを行いながら成果物を作成しました。その結果、各団体様から感謝の言葉をいただくとともに、参加した支部会員からも多くの熱意あるコメントが寄せられました。

本イベントはSDGsの「目標8:働きがいも経済成長も」、「目標17:パートナーシップで目標を達成しよう」への貢献を目指したものです。普段の業務で培ったプロジェクトマネジメント・スキルが社会課題解決に役立つだけでなく、参加者自身のキャリアの可能性を広げる機会にもなりました。



はじめてのプロジェクトマネジメント研究会

PMI日本支部 副会長 森田 公至

日本支部では、2025年新たに「はじめてのプロジェクトマネジメント研究会」を立ち上げました。

本研究会は、「プロジェクトマネジメントの普及を目指し、初心者が安心して学べる環境づくり」と「若い世代や初心者の成長を支援し、他研究会への誘導やキャリア形成をサポート」することをミッションとして設立しました。プロジェクトマネジメントに初めて触れる方や、学び

直しを希望する方を主な対象とし、基礎的な考え方や実務への活かし方を分かりやすく学ぶ場として活動しています。参加者同士の対話や事例共有を重視することで、実践につながる理解を深めることとしています。

プロジェクトマネジメントの裾野を広げ、多様な人材が活躍できる基盤づくりに貢献していくため、以下の3つのワーキンググループにて活動を開始しています。

PM普及WG	PMのイメージ改善、身近なゲームやイベントに関連付けた普及活動
コンテンツWG	若い世代がPMの世界に飛び込みやすいコンテンツ提供、ライフスタイルや趣味とPMを組み合わせた研究など、参加者のハードルを下げて活動
ナレッジ共有WG	PMP取得に向けた勉強会、合格体験談共有、CAPM取得の促進、学生向けPM教育など

COLUMN

知久 忠晃

はじめてのプロジェクトマネジメント研究会代表、関西ランチPM実践研究会、関西定量的PM事例研究会

2025年2月にキックオフした「はじめてのプロジェクトマネジメント研究会」で代表をしています。日本支部の活動を本格的に開始したのは2023年7月で、関西ランチの2つの研究会でも活動しています。日本支部での活動は、職場では得られない知見の共有や人脈の拡大だけでなく、同じような悩みや想いを持った方々と意見交換できる貴重な場にもなっています。これからたくさんの人にプロジェクトマネジメントを身近に感じてもらえるよう日常生活に当てはめてみるなど、わかりやすく情報発信していきたいと考えています。



2023-2025中期計画の総括

PMI日本支部 副会長 森田 公至

2025年は、現在の中期計画に基づき日本支部の持続的成長と社会的価値の向上を見据えた経営施策を着実に推進した一年となりました。会員価値向上を重要テーマとして位置づけ、デジタル基盤、人材育成、国際連携、標準推進の各領域において、将来を見据えた投資と仕組みづくりを進めました。

デジタル施策では、新WEBサイトを中心とした情報発信基盤を整備し、部会・研究会が主体的に活動を発信できる環境を構築するとともに、会員個人による知見共有も可能としました。これにより、活動の可視化とコミュニティの活性化を図り、会員エンゲージメント向上の土台を整えました。

人材育成分野では、資格取得支援や学習コンテンツの充実を通じ、プロジェクトマネジメント人材の継続的な育成を支援しました。国際連携においては、PMP受験対策アプリ「Study Hall」日本語版の立ち上げ支援やGlobal Summit参加者支援を実施し、グローバルな最新知見の国内展開を促進しました。

また、標準推進活動として各種標準類の日本語版提供、および関連セミナーを継続的に実施し、実務現場への浸透とPMIブランド価値の向上に貢献しました。これらの施策を通じ、短期的な成果のみならず、次年度以降の成長に向けた経営基盤と組織力を着実に強化することができました。

【2026-2028中期計画】

2026～2028年の次期中期計画は、現行中期計画の主要施策を継承しつつ、新たな施策を加えることで、日本

支部の価値提供を一段と拡大することを目的としています。本計画は、PMI本部が掲げる「PMI-NEXT」、およびアジア太平洋地域の重点方針と整合を図り、日本支部として果たすべき役割を明確にしたうえで策定されました。

ミッションは「プロジェクトマネジメントの実践を通して、組織や個人の専門能力を高め、プロジェクト成功による価値を実現すること」、ビジョンは「プロジェクトマネジメントが価値実現に不可欠なスキルとして広く認知されている状態」とし、これらを実現するために4つの柱を設定しています。

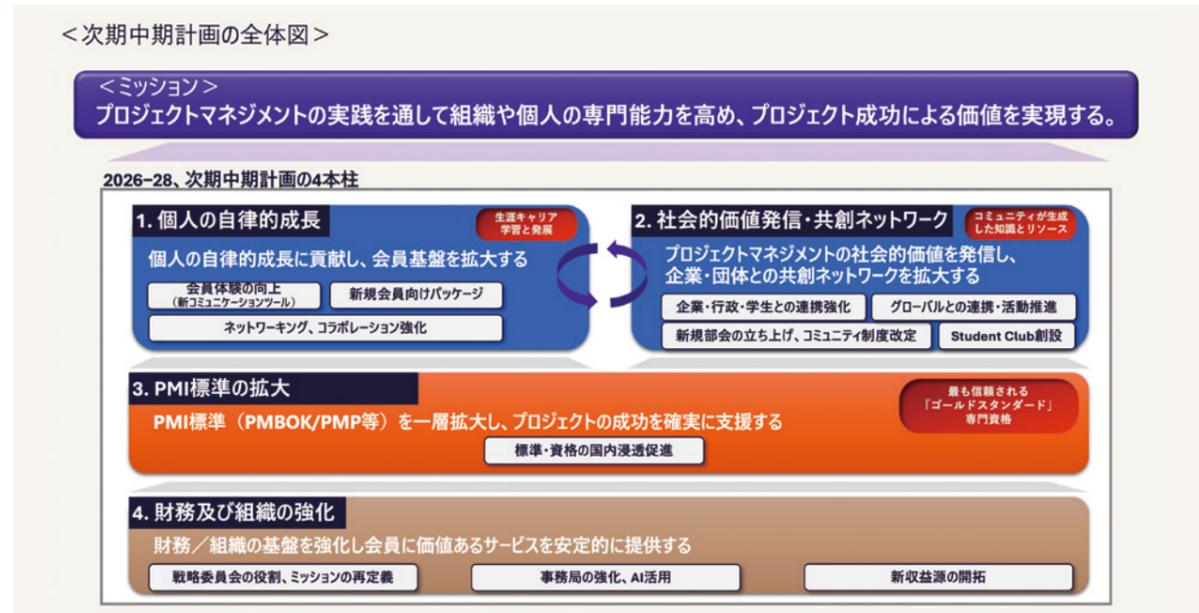
第一の柱は「個人の自律的成長への貢献と会員基盤の拡大」です。生涯学習やキャリア形成を支援し、会員体験の向上を通じて、参加価値を実感できるコミュニティづくりを進めます。

第二の柱は「社会的価値の発信と共創ネットワークの拡大」であり、企業・行政・学生との連携強化を通じて、プロジェクトマネジメントの社会的意義を広く発信します。

第三の柱は「PMI標準の一層の拡大」で、PMBOK®ガイドやPMP®をはじめとする標準・資格の国内浸透を進め、実務における「ゴールドスタンダード」としての位置づけを強化します。

第四の柱は「財務および組織基盤の強化」で、新たな収益源の開拓、事務局機能やAI活用の強化を通じ、安定的かつ持続可能な支部運営を目指します。

これら4本柱を通じて、日本支部は会員・社会・組織の三位一体で価値を高め、次の成長フェーズへと進んでいきます。



〈重点施策1〉

No	対象	対象2	施策	ステータス	推進主体
1-1	支部会員	非会員	戦略委員会の役割、ミッションなど再定義と見直し - AWARD、PMoA独立、分離 - 教育国際のコミュニティ化 - 若手、地域、女性に対する施策強化 - ステークホルダー分析、マーケティング	新規	ミッション委員会 戦略運営委員会
1-2	支部会員	—	新規部会の立ち上げ、休止研究会の廃止	新規	PMコミュニティ活性化委員会 戦略運営委員会
1-3	事務局	—	事務局強化 定期イベント、セミナー(新入会オリエンテーション、支部紹介)などの事務局移管、AI活用	新規	事務局 組織拡大委員会 PMコミュニティ活性化委員会
1-4	支部会員	法人SP	新規収益源の開拓(Newメンバーシップ考慮) - 法人向けサービス PMIグッズ、企業訪問ツアー 工場見学ツアー 新しい大型イベント、有償標準セミナー、サブスクセミナーなど	新規	ミッション委員会 会員サービス委員会 組織拡大委員会
1-5	支部会員	非会員	コミュニティ制度の改訂 - 支部施策との合致と定義した分類	新規	PMコミュニティ活性化委員会 規約改訂委員会
1-6	支部会員	法人SP	リクレーションを通じたネットワーキング、コラボレーション強化 - バーベキュー、キャンプ、ボーリング、ゴルフ、ツーリングなど	新規	PMコミュニティ活性化委員会 会員サービス委員会

〈重点施策2〉

No	対象	対象2	施策	ステータス	推進主体
2-1	支部会員	非会員	新コミュニケーションツールの導入を通じた新たな会員獲得と PMI日本支部の認知度向上	新規	会員サービス
2-2	支部会員	非会員	新規会員向けオリエンテーションパッケージ作成 PMIノベルティグッズの企画・制作(若手層向けPMI手帳など) 狙い: PMI組織の知名度・好感度の向上を通じた若手会員の増加	新規	PMコミュニティ活性化委員会
2-3	支部会員	事務局	PMIとの定期的なコミュニケーションを図り、日本支部独自の戦略や運営に対する理解を深め、協力体制を強化する(Region 9の他支部との共創)	新規	国際連携
2-4	その他	法人SP	学生と企業とのコラボレーションによる双方への魅力創出	新規	組織拡大
2-5	非会員	アカデミックSP	Student Clubの施策立ち上げ	新規	教育国際化
2-6	アクティブメンバー	法人SP	リージョン9の各国若手代表者を交えた次世代LM 狙い: 若手がグローバルなイベントに触れる機会を増やし、アジアの中で日本のアピール。日本から世界への発信力を高める	新規	PMコミュニティ活性化委員会

個人会員制度

▶ 会員制度のメリット

プロジェクトマネジメントに関して体系化されたアプローチと方法論・事例に関する知識を深く理解するために、PMP®などの取得・維持は極めて有効です。日本支部のメンバーになることで、そのための強力な支援が受けられます。

◆プロジェクトマネジメント実務者の方には

他社プロジェクトマネジャーとの交流、PMI 関連資格保持・更新のための情報収集のほか、プロジェクトマネジメントのベストプラクティスや近況・見通し、PMI 関連の研究状況の把握などにより、プロジェクトマネジメントに関する自己啓発につながり、実務能力を向上させる機会となります。

◆経営者の方には

プロジェクトマネジャーの育成、ベストプラクティスの研究結果や方法論の実践により、経営や組織の能力を高める機会となります。

◆一般の方には

今話題のあらゆる分野のプロジェクトマネジメントについて、専門的な知識・情報取得のチャンスとなります。

▶ 日本支部会員の特典

1. セミナー受講費の割引

2025年はオンラインセミナーならではの魅力を加味しつつ、遠方から・いつでも聴講していただけるライブ配信・オンデマンド配信の併用方式を多用したセミナーを展開しました。

日本支部主催のフォーラム、Festa、月例セミナー、アジャイル関連、PMI 標準など各種有料セミナー（次ページの表参照）に割引料金で参加いただきました。

また、ほとんど全ての有料セミナーについてはPDU、ITC 実践力ポイントの受講証明書を発行しています。

2. 各種委員会、研究会活動への参加

各種の委員会、研究会、プログラム、コミュニティ等にメンバーとして参加（すべてZoomやSlackなどのコミュニケーションツールを活用）することで、プロジェクトマネジメントに関わる技術研鑽、異業種の方々との情報共有・交流をしながらPDUも取得できます。また、これらの活動の成果は毎年夏に開催する日本フォーラムで発表されており、2025年度は部会・コミュニティから44セッション、法人スポンサー・スタディグループから2セッション、アカデミック関連で7セッション、協賛企業様から6編の講演がありました。これら全てのセッションがオンデマンド形式で7週間余にわたり提供され多くの方々に受講いただきました。

非会員の方々にも参加いただける研究会であるコミュニティは2025年末で8つとなっています。

【戦略委員会】

- ①地域サービス、②PMコミュニティ活性化、③組織拡大、④国際連携、⑤教育国際化、⑥標準推進、⑦会員サービス

【研究会】

- ①IT、②IPPM、③ポートフォリオ・プログラム、④PMタレントコンピテンシー、⑤組織的PM、⑥リスク・マネジメント、⑦PMO、⑧PMツール、⑨PM教育、⑩プロジェクトマネジメント、⑪ビジネス・アナリシス、⑫ソーシャルPM、⑬アジャイル、⑭ステークホルダー・エンゲージメント、⑮PM翻訳・出版、⑯IRC、⑰SDGsスタートアップ、⑱はじめてのPM

【プログラム】

- ①PMBOK®セミナー、②セミナー

【プロジェクト】

- ①PMI日本フォーラム、②PMI Japan Festa

【関西ブランチ】

- ①運営委員会、②PM実践研究会、③医療PM研究会、④IT上流工程研究会、⑤定量的PM事例研究会、⑥PM創生研究会

【中部ブランチ】

- ①運営委員会、②PMサロン、③地域ソーシャル・マネジメント研究会

【コミュニティ】

- ①女性、②AI@Work、③DA、④建設、⑤未来創造、⑥地域、⑦行政、⑧シニア

3. 新規入会の方へのオリエンテーション

日本支部に入会して間もない方を対象に無料のオリエンテーションを開催（年間3回）し、PMI 本部や日本支部の概要、部会活動状況等を紹介しています。また、「部会紹介セミナー」を開催（年間2回）し、会員の方々の部会活動への参加をご案内しています。

4. プロジェクトマネジメント関連書籍の割引購入

ホームページの日本支部オンラインショップを通じて『PMBOK®ガイド第7版』、『プログラムマネジメント標準 第5版』、『プロセス群：実務ガイド』などのプロジェクトマネジメント関連書籍を支部会員価格でご購入いただけます。



▶ 入会手続き

日本支部に入会いただくには、まずPMI 本部に入会いただく必要があります。PMI 本部ウェブサイトからオンラインサービス登録を行ってください。日本支部会員登録も同サイトから行えます。決済にはクレジットカードがご利用いただけます。なお、一部に消費税が加算されますのでご注意ください。

日本支部会員としてのさまざまな特典を活用しつつ、プロジェクトマネジメント・スキルの研鑽をお積みください。

※消費税対象

PMI 本部		PMI 日本支部	合計
入会費(※)	年会費(※)	年会費	
10ドル (入会時のみ)	129ドル	50ドル	●入会時は189ドル ●以降1年ごとに179ドル

PMI日本支部が主催するセミナー（2025年）の種類

種類	セミナー名称	内容	開催頻度	受講証明書
外部講師招聘によるもの	日本フォーラム	国内外の産官学のリーダーによる講演、各部会成果の発表	土日、1回/年	12PDU/回
	Japan Festa	国内の産業界・ベンチャー企業等のリーダーによる講演	土日、1回/年	10PDU/回
	アジャイル基礎	アジャイルの基本的な考え方をWS形式で体得	平日、1回/年	7PDU/回
	PGM実践WS	プログラムマネジメントの必要性をWS形式で解説	平日、2回/年	7PDU/回
	PFM実践WS	体系的アプローチによるプロジェクト取捨選択方法を解説	平日、2回/年	7PDU/回
	SPM研究会WS	社会課題解決型プロジェクトの達成条件を整理・可視化	土曜・1回/年	-
	月例セミナー	各界のリーダー・識者による講演	平日・土曜、6回/年	2PDU/回
	関西ブランチ創立15周年セミナー	PM関連3団体による講演	土曜・1回/年	2.5PDU/回
	中部ブランチ創立10周年セミナー	中部地域関連の産官学による講演	平日・1回/年	3.5PDU/回
	SDGsスタートアップセミナー	SDGsスタートアップ方法論を講義形式で習得	土曜、2回/年	-
理事・部会メンバーが講師を務めるもの	未来創造セミナー	若手向けプロジェクト入門講座、WS	平日・日曜、2回/年	-
	PMBOK7(詳細版)	PMBOK®ガイド第7版の詳細解説	土日、2回/年	14PDU/回
	戦略的PMO実践WS	PMOの位置づけと業務遂行方法	土曜、1回/年	4PDU/回
	PM実践WS	ショートケースによりPMの実践力向上を図る参加型WS	土曜、2回/年	2.75PDU/回
	リスクマネジメント・セミナー	リスクマネジメントをどう実践すれば良いかを体験的に学習	土曜、1回/年	6PDU/回
	標準セミナー	PMI標準関連の紹介・解説	平日、数回/年	-
法人スポンサー向け	関西成果発表会	関西ブランチ所属各研究会の活動成果発表・交流会	土曜、1回/年	-
	地域セミナー	全国6地域で、各地に根ざしたPM活動の紹介	土曜、6回/年	-
法人スポンサー向け	法人スポンサー連絡会	特集テーマを設け講師を招聘、法人スポンサー・SGの成果発表	平日、4回/年	3PDU/回

〔参考〕日本支部会員数、日本国内におけるPMI関連資格保有者数の推移

(各年12月末現在)	年度			
	2022	2023	2024	2025
PMI日本支部会員	5,704	6,133	6,522	7,480
CAPM® 資格保有者	484	601	670	734
PMP® 資格保有者	42,463	45,058	48,404	53,132
PfMP® 資格保有者	10	16	21	27
PgMP® 資格保有者	22	29	38	44
PMI-RMP® 資格保有者	17	20	22	29
PMI-SP® 資格保有者	7	9	8	10
PMI-PBA® 資格保有者	20	21	18	26
PMI-ACP® 資格保有者	374	447	532	514
DASM® 資格保有者	43	56	140	120
DASSM® 資格保有者	41	49	54	171
DAC® 資格保有者	10	14	17	15
DAVSC® 資格保有者	2	2	8	8

〔参考〕全世界でのPMI会員数、PMI関連資格保有者数の推移

(各年12月末現在)	年度			
	2022	2023	2024	2025
PMI会員	661,201	707,049	740,077	770,004
CAPM® 資格保有者	63,791	68,291	67,537	73,119
PMP® 資格保有者	1,284,829	1,448,971	1,570,438	1,657,410
PfMP® 資格保有者	1,340	1,708	2,268	3,083
PgMP® 資格保有者	4,077	5,353	7,724	9,061
PMI-RMP® 資格保有者	13,086	16,688	20,209	24,265
PMI-SP® 資格保有者	2,809	3,357	3,923	4,401
PMI-PBA® 資格保有者	5,984	7,314	8,496	9,362
PMI-ACP® 資格保有者	52,263	59,456	64,282	63,406
DASM® 資格保有者	4,559	5,628	5,050	2,570
DASSM® 資格保有者	3,834	3,088	2,963	3,759
DAC® 資格保有者	135	218	275	269
DAVSC® 資格保有者	70	125	181	196

法人スポンサー・プログラム

法人スポンサー・プログラムとは

日本支部における「法人スポンサー」とは、組織としてプロジェクトマネジメント向上に関心を持ち、支部のミッションにご理解をいただき、その活動を支援していただける企業、公益法人および団体の集まりです。法人スポンサー・プログラムは、法人スポンサーおよび、その社員の方々へ支部が提供する各種サービスです。

法人スポンサー・プログラムのメリット

- ◆ 日本では数少ない、組織のPM部門長、プロジェクトマネジメント推進に係るご担当および関係者同士の意見交換、相互研鑽および人脈拡充の場です。法人スポンサー連絡会では、グローバル・ビジネスにおけるPMの役割やPMの技術トレンド等をご紹介し(年3回)、企業のPM部門長や上級管理者が抱える課題・ニーズに対して相互コミュニケーションや研鑽の場をご提供しています(年1回)。
- ◆ 法人スポンサー所属社員のみで構成されるスタディー・グループ(SG、月次開催)にメンバーとして無料で参加いただけます。スタディー・グループは「企業横断研究会」であり、業種、企業の枠を超えた研鑽、交流の場となっています。
- ◆ メールマガジン(毎月配信)により法人スポンサー・プログラムや日本支部主催イベントのご案内をさしあげます。また、日本支部主催イベントへの参加や日本支部で取り扱う書籍の購入に際し、特別割引が受けられます。
- ◆ 法人スポンサーとして会社ロゴ、会社名を日本支部のホームページに掲載しますので、プロジェクトマネジメントに熱心な企業として広く社会にアピールすることができます。
https://www.pmi-japan.org/corporate_sponsor/list-of-corporate-sponsors/

2025年 法人スポンサー・プログラム実績

(1) 法人スポンサー連絡会

法人スポンサー連絡会は、PMおよびPM人材育成部門の方々へPM界の最新情報をお伝えするもので、法人スポンサー企業様社員の方のみが参加いただけるものです。2025年は6月度と12月度の連絡会については「会場開催+リアルタイム配信+オンデマンド配信」、3月度と9月度の連絡会については「リアルタイム配信+オンデマンド配信」で実施しました。各回の参加者は3月(申込134名)、6月(同198名)、9月(同147名)および、12月

(同176名)の4回で、無料でPDU受講証明書(2.0~2.5PDU)を発行しています。



2025年度法人スポンサー連絡会での講演実績

3月度	特集:PMI Global 情報 講演1:端山 毅氏/中谷 公巳氏/坂上 慶子氏/太田 秀生氏「PMI® Global Summit 2024参加報告」について 講演2:羽佐間 一潮氏/谷口 和行氏/楠川 達也氏/杉原 秀保氏「PMI® Region 9の3支部イベント参加報告」について
6月度	特集:PMO 講演:片江 有利氏「世界のPMO動向 ~世界のPMOが直面している課題:Trend for 2025~」
9月度	特集:『プログラムマネジメント標準』第5版 講演:アンリ 近藤氏/迫 良介氏「なぜ、今、プログラムマネジメントが求められるのか?」
12月度	特集:PM人材育成 講演:中村 亜子氏「PM教育現場から見てきたPM育成の潮流」

(2) 成果物の公開

- 人材育成SGでは、2025年12月に、「人間力カルタ(Human Power Card)」を法人スポンサーと支部会員向けに公開しました。プロジェクトマネジャーの知恵と経験を凝縮した「人間力カルタ」で、PMに必要な「人間力」を楽しみながら学び、気づき、語り合えるツールです。



- ケースメソッドSGでは、2025年1月に、「ケースメソッド実践ガイド」を法人スポンサー向けに公開しました。

これは、ケースメソッドを各社や各組織での実際の人材育成に役立てていただきたいの思いから、3つのポイントでまとめたものです。

Point 01 わかり易い

- シンプルな構成
- クリアな解説

Point 02 伝わり易い

- ケースメソッドをご存じない方に効果をイメージしていただける
- ケースメソッド導入を推進する際、説明&説得する資料に流用できる

Point 03 活かし易い

- 企画~計画~実施~振り返り等、そのまま使えるコンテンツ多数
- 実際に実施した実績データに基づく有用、有効なノウハウを公開

(3) 法人スポンサー・スタディー・グループ(SG)

スタディー・グループは、法人スポンサー企業所属社員のみで構成される「企業横断研究会」で、企業が共通して抱える課題、対応すべき事柄について意見交換、調査研究を行っています。2025年度は延べ41社から52名の方々が3つのグループに分かれて活動し、その活動成果を12月度法人スポンサー連絡会で発表いただきました。各スタディー・グループの活動概要は下記の通りです。

◆ 人材育成スタディー・グループ

プロジェクトマネジャーのあるべき人間力の強化にフォーカスし、PMCDF(プロジェクト・マネジメント・コンピテンシー開発体系)の「人間力(人格コンピテンシー)」を研究しています。

◆ 若手PM育成スタディー・グループ

2010年のSG創設以来、「入社5年目を目途としてこれからPMになる人、PMになりたての人」に対する課題の発見、対応策について研究しています。

◆ ケースメソッドスタディー・グループ

社内PM教育においては「ケースメソッド」が有効であると考えて研究に取り組んでいます。「ケースメソッド」とは、参加者中心型の主体的な学びを実施するための教育手法として世界中で実践され、参加者がケース(事例)に登場する当事者になりきって疑似体験する学習手法です。

アカデミック・スポンサー・プログラム

日本におけるプロジェクトマネジメント(PM)の発展に理解を示し、PM関連の教育を実践する国内の大学、短大、高等専門学校、高等学校、中学校等ならびに公的研究機関を日本支部アカデミック・スポンサーとして登録しています。2025年12月末時点での登録数は58となります。

【2025年度の活動について】

2025年度は、プロジェクトマネジメントおよび支部活動に関する各種情報提供の他、以下を行いました。

- 日本フォーラムでのアカデミック・トラックの開催(オンデマンド開催)
- アカデミック・スポンサー・カンファレンスの開催(慶應義塾大学日吉キャンパス)
- プロジェクトマネジメント研究報告の編纂・公開

① 日本フォーラムでのアカデミック・トラックの開催

2024年度は8セッション、9講演をオンデマンド配信方

式で提供しました。

No.	講演タイトル
A-01	大学教育におけるPM教育の実態調査と授業実施事例
A-02	マネジメント教育における新しいパラダイム: 自律学習を支援するためのRAG型AIティーチングアシスタント ~プロジェクトマネジメント学習を支援するAIティーチングアシスタントの実装可能性~
A-03	PM教育プログラム認定機関GACとは
A-04	地域共生に向けた産学連携教育
A-05	高専のアントレプレナーシップとスタートアップ-人材育成プロジェクトGEARの展開-
A-06	これからの時代の課題解決とネガティブ・ケイパビリティ~クリエイティブコンフィデンスを養う~
A-07	PROJECT ATAMIを活用した教育の提案-アートプロジェクトのプロジェクトマネジメント視点からの分析-

② アカデミック・スポンサー・カンファレンスの開催

2025年8月23日、アカデミックスポンサー・カンファレンスをコロナ禍以降初めて対面形式で開催しました。本

カンファレンスは「対面で深める連携と学生エンゲージメント」をテーマに、大学・大学院におけるPM教育の実態調査報告、日本支部の国内外での活動紹介、PMの最新ツールを体験するワークショップ、今後の支部企画の共有など、多面的なプログラムで構成されました。対面ならではの活発な質疑応答や交流会を通じ、参加者間のネットワーク連携が大きく強化され、参加者からは高い満足度が示されました。また、本カンファレンスを契機として新たなアカデミック・スポンサーの加入も実現し、対面開催による交流活性化の有効性が改めて確認されました。



③プロジェクトマネジメント研究報告の編纂・公開

日本支部ではプロジェクトマネジメントに関する調査・研究成果を2021年度からプロジェクトマネジメント研究報告として編纂・公開しており、国内外から多くのアクセスがあり、国際的にも参照されています。2025年度は第6号を2026年3月末にJ-STAGEで公開予定です。第6号は22件の投稿があり、アカデミック・スポンサー校の先生方のご協力の下で編纂作業を行いました。

なお、過去（第1～5号）についてはJ-STAGE (<https://www.jstage.jst.go.jp/>)にてご覧いただけます。



行政スポンサー制度

行政スポンサー制度は、法人スポンサーと同等のサービスを自治体や省庁などの行政組織に享受していただく仕組みです。行政分野では、日本支部が運営する「行政コミュニティ」にも180名を超える参加がありました。日本全国の自治体の職員の方も参加されています。行政スポンサーには、先進的な取り組みをされている広島県福山市様をはじめ、複数の自治体に参加いただいています。

地方自治体や省庁がDXやGXなど複雑な事業（プロジェクト）を担う中、その成功にはプロジェクトマネジメントが必須になっています。今後も日本支部では行政向けの取り組みを活発に進めていきます。

COLUMN

除村 健俊 日本支部 理事、サイバー大学 教授



私は若い頃、技術の探求に夢中で、プロジェクトマネジメント(PM)という言葉すら知らず、マネジメントも自分には無関係だと考えていました。しかし、年を重ねてからの経験から、PMの重要性に気づきました。社会人を経てアカデミックの世界に身を置いた現在は、PMIの活動を通じて、大学生や中学生を対象にPMの啓発に取り組んでいます。背景には、「もっと早くPMを知っていれば」という自身の反省があります。PMの学習や普及、会員増の活動に加え、若者にPMの価値の認識を促し、将来を担う若者の育成に貢献する視点にも、ぜひ目を向けていただければと思います。

支部紹介オリエンテーション（支部未入会者向け）

本活動はPMP等PMI資格の保有者・取得予定者で支部未入会者を対象に、日本支部で活動することの魅力や支部会員になるメリットを紹介し、新規入会を促進することを目的としています。企画・運営は組織拡大委員会にて行っており、2025年度は2024年と同様に3月、6月、9月の計3回オンライン形式で開催しました。

セミナーの前半では資格の活用ポイントや効率的な

PDUの獲得方法に加え、キャリアアップの場としての支部活動を紹介しています。また、後半では小グループに分かれての質疑・意見交換などを行っています。

2025年度は延べ85名の方にご参加いただきました。本活動は2026年度も同様の形式で継続予定です。

法人向け支部紹介セミナー

本セミナーは日本支部の活動に興味・関心を持っていただいた各法人の窓口ご担当者を対象に2022年度から定期的に開催しています。日本支部および、法人スポンサープログラムのご紹介のほか、法人スポンサー連絡会にて好評だった講演をアレンジして提供し、実務に役立つ情報提供も行っています。

2025年度は2月27日にオンライン形式にて開催し、

49名の企業担当者にお申し込みいただきました。当日は「日本支部でのAIに関する取り組み紹介」をテーマに、「AI活用プロジェクトから価値を引き出す実践手法」、「プロジェクトマネジメントのためのAI技術適用の現状と課題」の2講演のほか、法人スポンサーのスタディグループ活動報告等を録画講演にて視聴いただきました。

新入会オリエンテーション

新入会オリエンテーションは、日本支部に入会いただけてから日が浅く、支部会員特典の活用方法がわからない方向けに年3回開催しているもので、①PMI本部、②日本支部、③部会活動の3つを1時間でご紹介し、1.0PDUの受講証明書を発行しています。

また、部会活動をより詳しく知りたい方向けに、zoom

のブレイクアウトセッションを利用した個別説明会（ネットワーキング）も実施しており、先輩支部会員とのコミュニケーション機会も提供しています。参加は無料ですので、新規入会された方で、活用方法のわからない方は、お気軽にご参加ください。

部会紹介セミナー

部会紹介セミナーは、日本支部に入会したものの活用方法がわからない方や部会に興味があるものの参加を躊躇されている方々に部会を知っていただき入会していただくことを目的にzoomを用いて開催しています。

2025年はオンラインでの部会紹介セミナーを6月・12月の2回開催し、各回2～3つの部会を特集しました。セミナーは2部制で、第一部では部会活動全般のご説明

と各部会メンバーからのプレゼンテーション、第二部ではzoomのブレイクアウトルーム機能を使って部会別の詳細な交流会という構成です。開催後の参加者アンケートでは各回好評価をいただき、また、一定数の方々がプレゼンされた部会に見学・入部される結果に繋がっています。

部会横断活動

LM2025 (リーダーシップ・ミーティング 2025)

リーダーシップ・ミーティングは、PMIや支部の方向性を部会リーダーと共有・議論し、参加者のリーダーシップを育成することを目的に年に一度日本支部の各部会や委員会代表者、理事、事務局メンバーが全国から集い開催しています。11回目となるLM2025は、東京都中央区のL stay & grow晴海にて昨年に引き続き合宿形式で開催し、PMI APからの海外ゲスト10名を含む90名もの方にご参加いただきました。

1日目は端山会長の開会挨拶にはじまり、続いてPMI本部のゲストから2025年度方針や活動事例など以下4テーマの講演があり、最後にQ&Aにも対応していただきました。

① PMIの共有とAPAC計画: SoHyun Kang氏 (PMI APAC 地域マネージングディレクター)、② PMI AI 共有: Kathleen Walch氏 (PMI AI & エンゲージ& コミュニティディレクター)、③ PMI サステナビリティ共有: Lucilla Dotto氏 (PMI GPM JV リード、サステナビリティ担当)、④ 日本コミュニティ& マーケティング最新情報: Yolanda Kim氏 (PMI 北東アジア 支部エンゲージメントスペシャリスト)

続いて日本支部側からも以下の5テーマの講演がありましたが、今年はポケットークの同時翻訳サービスを導入したことで、海外ゲストとも容易に意思疎通を図ることができたと感じています。

① 日本支部の紹介: 端山会長、② 日本支部の次期中期計画: 森田副会長 (ミッション委員会)、③ 日本支部の

SDGsの取り組み: 稲葉理事、④ 次世代リーダーシップ・ミーティング: 池之上リーダー (PMコミュニティ活性化委員会)、⑤ 若手PMにPMI標準をプロモートするツールとしてのマンガ: 金子理事 (標準推進委員会)

夜のパーティーや二次会では、ゲームなどで参加者間の交流を深め、皆さんが深夜までお酒を酌み交わしながら熱い議論を続けました。

2日目はPMコミュニティ活性化委員会の石井氏と慶応大学大学院SDMの当麻哲哉教授に講師を務めていただきワークショップを開催。9名×8チームに分かれて、「日本支部としての『価値創出』を考えよう」に関連するテーマで議論・検討を実施。

アイデアや施策内容は、エレベーターピッチやスキット (寸劇)、ロードマップ作成などで具体施策に落とし込み最終発表していただきましたが、日本支部の明るい未来を予感させるユニークなアイデアも飛び出し、会場内は大いに盛り上がり、あっという間の1.5日間でした。

参加者アンケートでもバラエティ豊かなカリキュラムと、PMIの海外ゲストなど普段接する機会のないメンバーと合宿形式で交流できたことが大変好評でした。来年以降も皆さんに喜んでいただけるイベント企画ができるよういただいたご意見も取り入れながら企画・運営してまいりますので、よろしくお願いいたします。



部会リーダー交流会

部会リーダー交流会はPMコミュニティ活性化委員会が企画、運営するもので、日本支部の活動と各部会活動に関する情報共有や部会間連携、部会活動の活性化を目的として年4回開催しています。2025年12月はTKPガーデンシティPREMIUM秋葉原にてオンサイト開催とし、PMI台湾支部の理事など海外からのゲストや地方からの参加者を含め86名の方々にお集まりいただきました。

当日はPMコミュニティ活性化委員会委員長の杉原理事による開会宣言にはじまり、端山会長挨拶の後、PMI台湾支部理事のJanice Hsu氏から海外におけるPMI活動の紹介とともに、日本支部の印象などをお話いただきました。

その後、日本支部の全体活動計画として、戦略運営委員会やミッション委員会から説明があり、7つの戦略委員会 (PMコミュニティ活性化、地域サービス、教育国際化、

標準推進、国際連携、会員サービス、組織拡大)や28の部会・コミュニティから年間活動の総括をライトニングトーク形式で (一部リモート登壇も交え) 発表いただきました。各発表に関する質問もあり会場開催ならではの交流も生まれたように思います。

第2部の交流会は、坂上理事の乾杯にはじまり、ケータリングの料理やお酒を楽しみながら毎年恒例の交流会が立食形式で行われました。お楽しみ抽選会では、森田副会長のMCのもと和やかな雰囲気で行いましたが、豪華景品をゲットされた方がいる一方でハズレ (ペットボトルの水) を引当てた方もいて、例年以上に盛り上がりました。

参加者間の交流を通じて日本支部メンバーの今年の支部活動への貢献を讃え、労を労う意味で、年末を締め括る良いイベントになったと感じています。



COLUMN

池ノ上 誠司 PMIコミュニティ活性化委員会

2023年からPMコミュニティ活性化委員会に所属し、リーダーシップミーティングや部会リーダー交流会の企画・運営に携わっています。企画段階から当日の運営まで、多くの諸先輩方や同年代のPMの皆さんと関わる機会に恵まれ、毎回新しい刺激をいただいています。

支部活動を通じて感じるのは、PMスキルの向上だけでなく、人とのつながりから得られる学びの大きさです。立場や経験の異なる方々と意見を交わすことで、自分の視野が広がり、日々の業務にも良い影響を与えています。多くの方々との出会い、共に活動できるこの環境は、私にとってとても充実した時間となっています。



全国の支部会員による活動

統合プロジェクト・パフォーマンス・マネジメント研究会

2019年に旧EVM研究会から改編した「統合プロジェクト・パフォーマンス・マネジメント(IPPM)研究会」は、現在もEVMを中核手段とした総合的なパフォーマンス・マネジメントを調査研究する活動を継続しています。

PMIの新標準「The Standard for Earned Value Management」の翻訳研究を継続して行っています。

また、プロジェクトマネジメント研究報告(PMRR)は、2021年版の創刊以来、毎年1~2稿を投稿しており、2025年版でも2稿投稿しました。その他、プロジェクトマネジメントにおける機械学習および生成AIに関する知識・技法の情報取得に向けての研究も継続して行っています。

ポートフォリオ/プログラム研究会

「2025年日本人PgMP®/PfMP®100人 構想」をベースに、○日本フォーラムでの発表、○PgMP®/PfMP®資格取得セミナーの開催、○他の研究会との交流・テーマの深掘りを進め研究会活動を活発にするの3点を目標に活動しました。

定例会では、持ち寄ったテーマに対し、PPPMの観点から、ほぼ全員発言にて熱気のある気づきの大きな、実際の業務に即したやり取りが行われています。2025年は当研究会の20周年記念イベントも開催され、全10回の定例会議と合わせて延べ270名が参加しました。また、研究会合宿を開催し、参加メンバー間でポートフォリオ/プログラムマネジメントに関わる意見を交わす中で、古参メンバーだけでなく新しいメンバーも含め、深い信頼を獲得しています。



8月の20周年記念イベントの集合写真

PMタレントコンピテンシー研究会

PMCDF第3版をリファレンスとして、コンピテンシー育成方法や新しいPMの役割とコンピテンシーを探求しています。2025年度は研究会内でのワークショップ開催やコンピテンシー研究をテーマに活動しました。

2025年度は2月にワークショップを行い、実務で直面した多様なテーマを通じてコンピテンシーについてディスカッションを行いました。その成果をはじめ、



ワークショップ後の懇親会

3件のフォーラム発表を行いました。また標準セミナーではPMCDF第3版の概要やPMコンピテンシー向上ワークショップの事例紹介に加え、DX時代に必要なコンピテンシーについても研究結果を発表・講演して好評を得ました。

その他にも、実践コンピテンシーのチェックリストの作成など、楽しく研究会活動をしています。

組織的プロジェクトマネジメント研究会

OPM標準を中心に組織的プロジェクトマネジメントの方法論やさまざまな組織論を研究し、日本の組織へのベストプラクティスの普及・展開を目指して活動しました。

OPM標準の解説セミナーは継続して実施していますが、研究会内ではOPM標準だけでなく、組織のプロジェクトマネジメントに関するさまざまな取り組みについて研究しています。日本フォーラムではDX実現のために経営理論と組織のウェルビーイングを活用するというテーマで講演しました。また、定例会ではナレッジマネジメントと組織のAI活用の関係についての議論を行いました。

リスク・マネジメント研究会

2025年度は、ワーキンググループ活動を見直し、月例会においても議論する時間を創出するなど、活性化を図ることを目標に活動しました。また、実務ガイドの日本語版を監訳し、日本での普及に貢献する活動を行いました。

月例会、ワーキンググループ活動、PMI-RMP勉強会、実務ガイド監訳作業などを定期的に行いました。6月にはワークショップ型セミナー「転ばぬ先の杖」を開催し、21名の方の対面で参加いただき高評価でした。11月には研究会内でフォーラムを開催し、ワーキンググループや個人の研究活動の成果を共有しました。また、マンガで学ぶプロジェクトマネジメント(再びリスク編)として「リスクの範囲と見方」の作成に協力しました。



研究会内フォーラム後の懇親会の様子

PMO研究会

企業/団体のPMOに関する研究を通して国内PMOの発展を目指しています。2025年度も5つのWGで各調査やワークショップを行い、また「PMO実務ガイド」の発刊に併せ、勉強会や対外セミナーを行いました。

2025年は、全体での月例会(4回のハイブリッド開催)、5つのWGの定例ミーティング、日本フォーラムでの2講演、「戦略的PMO」ワークショップ(2026年1月)を実施しまし

た。また2025年2月に新たに公開された「PMO実務ガイド」を踏まえ、4月~10月に同内容の部内勉強会を開催しました。さらに11月に地域セミナー(九州、東海・富士、中部)、12月に標準セミナーに登壇し、PMOをテーマとした講演を行いました。

2026年度は従来の「戦略的PMO」に加え、「PMO実務ガイド」も踏まえた、PMOに関する研究の深化に取り組んでいきます。



PMO研究会ワークショップ(2026.1)開催直後、ホッとしている研究会メンバー

PM教育研究会

「プロジェクトマネジメントに関する実践的教育」をミッションに、メンバー間の知見の共有や大学でのプロジェクトマネジメント講座を実施しました。

例年実施している神奈川県内の大学校での「プロジェクトマネジメント」講義(全8回)を、2025年度も一学期にわたって実施しました。本年は教科書を最新のものに刷新したことに伴い、講義資料のアップデートを行うとともに、演習内容についても現状に即した再検討を加えました。この中で最新の知見を反映させることで、より実践的で質の高い教育を提供できるよう、継続的な改善に取り組みました。

プロジェクトマネジメント研究会

参加メンバーが、興味を持つテーマを研究、自由闊達に意見交換できる環境を創り、当研究会でレベルアップしたメンバーがさまざまな場で活躍することをミッションに活動しました。

当研究会は発足以来、2025年に定例会が通算100回という大きな節目を迎えました。毎月の定例会では、メンバーが議題を出し合い、知見の共有や活発な意見交換を通じて互いに研鑽を積んでいます。また、新たにPMBOK®ガイドの日本語版の振り返りと今後の展望を検討するワーキンググループを発足させ、活動を開始しました。これまでの歩みを土台としつつ、最新の知見を取り入れてさらなる発展を目指し、精力的に活動を続けています。

ビジネスアナリシス研究会

ビジネスアナリシスに関する調査・研究を通じて、現場で活用できる具体的な手法を提供することで、ビジネスアナリシスの普及を図ることを目標に活動しています。2023年度からワーキンググループに分かれて活動しています。

日本フォーラムでは『ビジネスアナリシスは活用できる? プロジェクトでよくある課題や問題とビジネスアナリシス』、『ビジネスアナリストとプロジェクトマネジャーの協働戦略 ~成功するプロジェクトのための最適な役割分担を目指して~』の2編を発表しました。また、標準推進委員会と連携して当研究会前代表の谷氏が『ビジネスアナリシス実務ガイド第2版』の監訳リーダーとして活動しました。



年末懇親会の様子

ソーシャル・プロジェクトマネジメント研究会

社会課題解決の活動に適したPM手法の開発・普及により、社会の発展に貢献することを目的としています。2025年度は主に外部セミナーの企画・開催、ソーシャルPM手法の見直しを目標に活動しました。

2025年度の主な成果は以下のとおりです。①日本支部主催セミナーとして「ブ譜実践ワークショップ」を開催しました。②NPOへのインタビュー結果を基にパターンランゲージを試作しました。③コミュニティキャピタルの研究を継続しウェルビーイングの相関性を調査しました。④シニアコミュニティと協働で子供向けのタワーゲームを実施しました。⑤メンバーの知見を共有する「学びのセッション」を毎月実施しました。



「ブ譜実践ワークショップ」開催の様子

アジャイル研究会

アジャイルに関する情報共有、ディスカッションにより理解を深め、実践、展開することで、国内外のIT産業の発展に貢献します。各自が主役となり活動し、サポートし合うことで、価値創出の最大化を目指します。

月例会では毎月Agile関連の講演動画を視聴・ディスカッションしました。大学との共同研究内容の共有、メンバーの書籍執筆活動のサポート、講演活動の結果共有など、2025年は若い世代も加わり、より活発な活動になりました。その他、毎年広くアンケートを収集しまとめて一般公開している「アジャイル意識調査」は内容をブラッシュアップし、アジャイルに対する現状と課題を示すことができました。



月例会恒例の出席者記録を兼ねた記念撮影

ステークホルダー・エンゲージメント研究会

PMBOK®ガイドのステークホルダーメインを中心に多様なステークホルダーに対する効果的で実践的なマネジメント・エンゲージメント方法を研究し、会員に展開することを目標に活動しました。

2025年2月に支部会員に対して、「どのようなエンゲージメントを行うことで影響を受けたり与えたりしたか」のアンケート調査を実施しました。この結果をPMBOK®ガイド第7版のステークホルダー・パフォーマンス領域やチーム・パフォーマンス領域を含めた形で分析した結果と、自身と関係者のウェルビーイングなエンゲージメントの実例を日本フォーラムにて発表しました。



定例会の様子

はじめてのプロジェクトマネジメント研究会

学生からベテランまで立場を問わず活動しており、PMに興味を持ってもらうことを目的としています。2025年度はナレッジの共有、イベントやコンテンツを通じてPMの理解促進を目指して活動しました。

対外活動として、11月に「ゲームで遊んで学ぶプロジェクトマネジメント」を開催、12月には「マンガで学ぶプロジェクトマネジメント(コミュニケーション編)」を公開しました。

研究会内では「難しいを簡単に」をテーマに、身近な例えや平易な言葉で伝え、専門用語や複雑な概念をかみ砕いて整理・共有するナレッジ展開や、部会メンバー内でのPMに関する課題をPM知恵袋に集約し、新たな視野の展開も行っています。

PMBOK®セミナー・プログラム

PMBOK®ガイド第7版のセミナーを継続的にオンデマンド形式で提供するとともに、PMBOK®ガイド第7版の詳細解説セミナー(会場開催)を開催しています。

2025年度は、PMBOK®ガイド第7版詳細解説セミナーを2回(6月、10月)開催しました。このセミナーは、講師による講義に加え、参加者間の意見交換(グループワーク)を設けることで理解を深める形式で進めています。

先般、PMBOK®ガイド第8版が公開されましたので、2026年度は、第8版に対応したオンデマンドセミナーをイチから制作することが主な活動となります。

セミナー制作にご興味のある方は、ぜひ一緒に活動してみませんか。



PMBOK®ガイド第7版の詳細解説セミナーの様子

セミナー・プログラム

聴講者に有益な示唆を与えてくれる講師の発掘、および月例セミナー、PMI Japan Festa 2025の計画的実施を目標としました。また、セミナーの質を落とさず効率的に運営することを心掛けました。

計画通り6回の月例セミナーと2日間のPMI Japan Festa 2025を開催しました。月例セミナーは全て完全オンライン、Japan Festaは1日目会場アキバプラザとオンラインのハイブリッド、2日目完全オンラインで開催しました。受講いただいた方の平均満足度は、月例セミナー97.3%、PMI Japan Festa 93.0%でした。また、外部講師によるメンバー向け勉強会も開催できました。



Festa2025運営メンバー

SDGsスタートアップ研究会

多くの法人がSDGsの達成のための事業を実際に行う際のプロジェクトの立ち上げ・推進がうまく行かないという課題を解決するために、SDGsスタートアップ方法論の普及促進とプロジェクトマネジメント支援を行う。

私たちは内閣府『地方創生SDGs 官民連携プラットフォーム』にSDGsスタートアップ研究分科会を立ち上げ、SDGs事業の効果的な立ち上げ推進を支援しています。

2025年もSDGsスタートアップ研修ワークショップを3回開催、法人におけるSDGs事業のプロジェクトマネジメント支援を行うとともに、春と秋に大規模SDGsスタートアップセミナーを開催、日本フォーラムにてExcellent Speaker賞を受賞するなど多くの成果をあげています。



『KURUKKU FIELDS / クルックフィールズの視察ツアーの一コマ

関西ランチ所属支部会員による部会活動

関西ランチ 運営委員会

関西ランチの5つの研究会と共にランチの運営を行っています。関西でのサービスを充実させるため、関西セミナーなどの会員向けイベントの提供や、成果発表会を通じた研究会同士の交流を促進しています。

月に一度、関西ランチの研究会代表と運営委員が集まり、関西ランチの運営について企画・検討を行っています。2025年は関西ランチ15周年を祝い、「PMわくわくフェス」を開催しました。5つの研究会による成果発表会は、リアル会場とオンラインの併用で開催し、各研究会による個性豊かな発表に加え日本プロジェクトマネジメント協会様、プロジェクトマネジメント学会様の発表もあり、垣根を越えたPMの交流を図りました。



15周年記念イベント 打ち上げ(運営委員メンバー)

関西ランチ プロジェクトマネジメント実践研究会

プロジェクトマネジャーの実践力向上を目的とし、ワークショップを継続開催しています。2023年度からターゲット層を「ジュニアからシニアまで」に拡大しました。2025年度は学生向けPM教育プログラムのさらなる改善と、関西の大学での実践を目標に活動しました。

日本フォーラム2025では2件(「生成AIと共に探求するショートケース開発の実践」、「想定外の出来事(マネジ

メント予備)を突破するPMのリーダーシップ(パワースキルの発揮とEQ向上の検証))の発表を行いました。

4月には川崎医療福祉大学にて、「PM実践ワークショップ」を3年連続で開催し、高評価を受けました。

また、11月には京都光華女子大学にて「プロジェクトふりかえり」のワークショップを開催し、念願であった関西の大学での実践を実現することができました。



京都光華女子大学 ふりかえりワークショップ(チーム検討風景)

関西ランチ 医療プロジェクトマネジメント研究会

2025年度は日本フォーラムにおいて地域医療連携、および医療機器開発に関するPM/PgMの発表を目標に活動しました。また、毎月定例会を実施し、各人が医療に関連したPMトピックを持ち込み、ディスカッションを行いました。

当初の計画通り、地域医療連携と医療機器開発に関する2題を日本フォーラムで発表しました。医療に関するプロジェクトは先行研究が少なく、手探りでの取り組みとなりましたが、発表準備の過程や聴講者からのフィードバックから学ぶことも多々ありました。両テーマは2026年以降も継続して取り組んでいく予定です。また、2025年も定例会の中で医療PMトピックに関するディスカッションを行うことで知識を深めました。

関西ランチ IT上流工程研究会

ITプロジェクトの上流工程での実践事例の共有・議論を行い、そこで得た知見を広く発信・展開することでIT業界全体をより良くすることに貢献することを目的に、「ビジネスリレーションシップマネジメントの研究」、「アーキテクチャとPMとBAの融合の研究」、「DA(Disciplined agile)の実践」をテーマに活動しました。

日本フォーラム2025では「改革活動に取り組むプロジェクトマネージャーに必要なビジネスアーキテクチャ思考～タレントトライアングルのBusiness Acumenを考える～」と題して講演し、高評価を得て優秀講演者 (Excellent Speaker) に選出されました。また、関西ランチ成果発表会では「BAとPMの架け橋 -グローバルなエンタープライズアーキテクチャ最新動向-」を発表し、エンタープライズアーキテクチャの国際動向と日本のプロジェクトマネジメント実務への適用について知見を共有しました。引き続きビジネスアーキテクチャとプロジェクトマネジメントの融合領域で研究活動を深め、DX時代のプロジェクトマネージャーに必要なスキルと知見の体系化に取り組んでいく予定です。

関西ランチ 定量的PM事例研究会

2025年度は参加者のプロジェクトや関心事を元に毎月事例発表を行い、互いの経験から学び合うことを目標に活動しました。近年、定量的なマネジメントに加え、人に関するテーマを中心に研究活動を行っています。

月次合同定例会では参加者の皆さんから多くの事例を紹介いただき、多様な価値観を持ったメンバーとの交流を通じて学びを深めることができました。また、日本フォーラムでは「日本三百名山の挑戦で得た学びと仕事への効用」、関西ランチ成果発表会では「最新の生成AI関連の話題の紹介とデモ」と題した発表を行うなど、人とモノ(方法論)の両面で研究活動を展開しています。

関西ランチ プロジェクトマネジメント創生研究会

「PMの探究心/好奇心をくすぐるEmpathyひろばを世界に広げる」をパーパスとし、未来のPMに向けたスキルを提案します。2025年度は、AI×PMの探求を中心に「人間とAIの役割」、「自己効力/ソース理論などのパワースキル」、「具体と抽象」などを対話しました。

毎月第3土曜日の定例会では、各メンバーが思うテーマを中心に対話を繰り返し、実践の場で気づきを与えられるような発見を進めています。2025年は、生成AIを活用したPMの在り方を中心に対話を続けました。

合宿では、「具体と抽象」、「敬神」を学び、コミュニケーションの在り方を深く対話しました。また、「具体と抽象」や「起承転結人材モデル」の探求成果をワークショップの形で対外発表しました。



合宿、定例会の様子

中部ランチ PMサロン/セミナー

PMサロン/セミナーのミッションは、PMに関する情報共有の場を提供し、PM人材を育成および発掘することによってPM活動を支援することです。2025年度はセミナーを開催し、PM人材を掘り起こすことを目標に活動しました。

2024年度に引き続きPMサロン/セミナーでは、『マネジメントサロン100名構想』と題して、中部地区でマネジメント活動を行う団体や個人をつなぎ、「やりたいこと、やれること、やらなければならないこと」を見出す価値を探索してきました。ビジネスアナリシスやプロジェクトマネジメントを活用し、その価値を検討する中で、特にビジネスアナリシス未経験の参加者にとって貴重な体験の場となりました。また、毎月第一水曜日にリモート定例会を継続し、学びと交流の機会を提供し続けています。

中部ランチ 地域ソーシャルマネジメント研究会

当研究会は社会的課題の解決に向け、プロジェクトマネジメントがどのように貢献できるかを考え実践する研究会です。2025年度はプロジェクトマネジメントへの生成AI活用のトライアルを目標に活動しました。

中部地域の企業と協力し、プロジェクト成果の受益者側と、プロジェクトを遂行し価値創出に貢献する提供者側の視点による生成AI活用をトライしました。

企業内のノウハウを用い、そこにPMBOK®ガイドのノウハウを組み合わせることでより価値の高い成果を生み出すことを目指しています。

また、中部ランチ創立10周年記念セミナーにおいて本研究会の活動内容紹介を実施しており、今後も研究会の取り組みの成果発表など計画しています。

法人スポンサー社員による活動

法人スポンサー 人材育成スタディ・グループ

一流のプロジェクトマネージャーに必要な人間力についての研究を継続しています。2025年度は、継続して制作してきた人間力カルタの品質向上と最終仕上げに注力し、完成を目標に取り組みました。

人間力カルタの読み札・取り札の文章および絵札のイラストについて、試行と改良を重ね、使いやすさの向上を図りました。

12月に校了し、同月の法人スポンサー連絡会にて正式リリース (WEBでのデータ公開) を発表しました。また、2026年1月には女性コミュニティ新春イベントにおいて人間力カルタを活用いただくなど、実績を得ることができました。

今後は、実践で役立つ成果物の作成を次のテーマとして取り組んでいきます。



人材育成スタディ・グループで年に1度開催している合宿での集合写真

法人スポンサー 若手PM育成スタディ・グループ

当グループの第4テーマである「これからの若手PM育成」は、過去の活動における3つの成果物を順次見直すことから始めるとしています。2025年は、第2テーマ「PMのモチベーション維持・向上方法」の見直し完了を目標に活動しました。

2025年は、2024年度に着手した第2テーマ「PMのモチベーション維持・向上方法」の見直し完了を目指して活動を行いました。項目数が多いため現時点で113/168の一次見直し完了となっています。完成イメージは描けた状態ですが、今後残項目の見直しと全体の見直し個所のレベル感整合が必要なため2026年度内の完了に向けて活動を継続中です。途中からの参加でもご協力いただける内容ですので、新規の参加をお待ちしています。



オンラインの月例定例会

法人スポンサー ケースメソッド・スタディ・グループ

PMやプロジェクトメンバーの育成、スキルアップを効率的に行うためにケースメソッド型の学習をどう導入すべきか、またその効果を最大化するためのケース作成やディスカッションリードの方法論を研究しました。

PMやプロジェクトメンバー育成手法としてのケースメソッド学習の有用性や、実践時の留意事項、ディスカッションリードの勘所に関して日本フォーラム2025で報告しました。ここでは特にケース作成における生成AIの利用方法や懸念事項についてもスタディ・グループ内で多く議論を行い盛り込みました。また、スタディ・グループメンバー内の社内での勉強会でケースメソッド学習の試行をするなど、実践的な活動を行うことができました。

中部ランチ所属支部会員による部会活動

中部ランチ 運営委員会

中部ランチは運営委員会、PMサロン、地域ソーシャルマネジメント研究会の3つの部会で構成されており、運営委員会は、その部会間の運営支援に加え、地域セミナーなどの支部内活動との連携を進めてきました。

2025年度は月1回のペースで定例会を開催し各部会の状況確認と相互のアドバイスなどを進めました。6月には中部ランチ創立10周年の記念イベントを開催し、11月には地域セミナーにてPMOとプログラムマネジメントの2つの視点での講演を提供しました。両イベントの会場となった名古屋大学 Tokai Open Innovation Complexとも連携を進め、中部地域を起点とした高い価値を実現できる共創の場を今後も提供していきます。



2025年6月開催の創立10周年記念イベントの様子

コミュニティ（非支部会員を含むグループ）による活動

女性コミュニティ

女性PMやその候補であるリーダーの皆様の活躍とスキルアップを支援し、交流を促進する活動を行っています。2025年度は定例会やイベントの開催に加えて、女性活躍に関する研究活動を通して多様で持続可能な社会への寄与を目標に活動しました。

月1回の定例会や季節ごとのイベントでは、プロジェクトマネジメントスキルと女性のキャリア形成の2軸を中心テーマとして取り上げ、活発な議論と情報共有を行いました。また、女性PMの能力開発やキャリア形成を阻む要因を国際的視点から学ぶイベントの開催や、日本フォーラム2025での研究発表に向けた議論・アンケート収集を通じて、女性活躍に関する研究と実践を積極的に推進しました。さらに、女性PMへのインタビューも継続的に実施し、多様な経験や転機、未来への思いを記事と動画として発信しました。

<https://www.pmi-japan-women.net/>



定例会やイベントの様子

AI@Work

PM×AI領域における利活用をPM4AI/AI4PM/AIK4PMの3視点から探究・実践するとともに、PMI Globalや有識者との連携を通じて知見を発信し、日本におけるPM×AIの実践知の醸成に寄与することを目標としています。

2020年1月に活動を開始、現在は登録340名超、アクティブメンバー約100名が活動するコミュニティに成長し、2025年は3WG合計13テーマを探究しました。PMI本部との初の共同開催によるPM×AIイベント、日本支部フォーラム6講演(うち2件が優秀講演)、3地域での地域セミナー講演、法人スポン



AI@Work 2025年の研究テーマ

サー連絡会・外部団体での講演、研究報告への論文投稿、建設コミュニティとの共同研究、PMI本部主催のCPMAI翻訳やAI in PPPM公開コメントへの参画など、多彩で広がりある活動に邁進しました。今後も各WGでの専門性ある議論深耕と、PMI Globalや有識者と連携した知見共有の拡大に努めていきます。

DAコミュニティ

DAコミュニティは、ディシプリンド・アジャイルの浸透と研鑽を通じてビジネス・アジリティを向上させることで、組織とチーム/個人の成功に寄与するというミッションで活動しています。2025年度は、WG活動を中心とした活発なコミュニティ活動の継続、ディシプリンド・アジャイルの知名度向上を目標に活動しました。

ディシプリンド・アジャイルという名前からアジャイル開発技法のひとつと思われる方も多いのですが、実はウォーターフォールやアジャイルといった技法に関わらずさまざまな組織に適用可能な手段の提供がDAです。DAに初めて触れる方は主にWG1で基礎的な学習を行い、DAとはどのようなものか理解を深めました。WG3ではDAの大きな特徴ともいえる組織全体(エンタープライズ)の領域の定義のうちいくつかについて調査・議論を行ってきました。(WG2は参加者希望者が少ないため活動を休止中) 活動に参加された皆さんは所属組織・チームにおいて、DAを活用して少しずつでも改善していく方法を理解いただけたのではないかと思います。



12月度全体会議の様子

建設コミュニティ

PMBOK®建設拡張版を基に章毎の討議を継続しました。新規参加者もあり、復習会を実施し議論を深めました。その後、メンバーで深耕する拡張テーマを選び、時にゲストも交え、討議を深めています。

月例会は各回1時間30分、すべてネットで11回開催しました。外部講師やゲストを含めて延べ参加者総数は116名(平均参加者数は9.7名)となりました。討議終了章数は全12章で2026年3月までに終了予定です。

復習会は4~8月に行い、新規参加者への討議内容の説明および、現メンバーを交えて各章のテーマを討議しました。拡張テーマは以下のとおりです。

・「AIの業務導入」(AIをテーマにしたコミュニティ内での事例紹介)/「AIの使用法とPMの役割」(AI@Workコミュニティを交えての討議)/「建設業界とIT業界のPMの違い」(建設PMに対するIT専門家との討議)/「AIと倫理」(高専教育者が生徒向けに作った資料を基に討議)

未来創造コミュニティ

現代において知識はインターネット・AIを使えばいくらでもインプットできるようになりましたが、「人とのつながりから得られる実践知」は得ることができません。そのため、未来創造コミュニティでは2025年度は「人とのつながりと実践知」をテーマに、交流と学習の機会を創出することを目標としました。

月例会では、メンバーで決めたテーマに沿って意見交換を行いました。

4月:新入社員に伝えたい「プロジェクトマネジメントを知るにはまずこれを読み!」 5月:新入社員に「プロジェクトマネジメントとは何か」を伝えるなら、あなたは何を話しますか? 6月:コロナ禍で変わった働き方やプロジェクト環境 7月:プロジェクト管理ツール皆さんは何を使っている? 8月:コミュニティメンバープレゼンツ、EVM手法を知ろう 9月:皆さんの立場と苦労を知ろう 10月:皆さんのHow Toメンバーのメンタルケア 11月:皆さんの失敗談/教訓とそこから得た学び 12月:今年の学びの総決算



月例会の活動ボード

地域コミュニティ

国内の5地域(北海道、東海・富士、広島、九州、四国)でPM関連の活動を行うもので、地域サービス委員会と連携し、各地域活動の情報共有を行っています。2025年度は地域内での定例会(勉強会)、地域セミナーの企画・開催を目標として活動しました。

5つのWG(地域)を中心に目標通り活動を行うことができました。

地域セミナーは春先から企画を進めて9月~11月にかけて各WGで実施し、受講者も前年より順調に増やせました。

定例会(勉強会)も各WGで着実に実施し、新たな勉強会テーマへの取組、セミナー以外での対面企画として4月に北海道にてレゴを使用したセミナー、7月に沖縄での勉強会を開催しました。

コミュニティへの参加者も50名近くなり、各地域での参加者をさらに拡大すべく募集中です。



北海道コミュニティで開催したレゴセミナーの様子

行政コミュニティ

「行政や、行政を通じた地域の取り組みの価値創出に貢献」をミッションに活動するコミュニティです。2025年度は、毎月定例会(勉強会)開催、ツール作成、事例収集、行政向けPR活動を目標に活動しました。

毎月の定例会(勉強会)には、1回あたり約15名の方が参加しました。特に2月の定例会では、政府CIO補佐官を長年務めた方を講師にお迎えし、政府情報システムにおけるプロジェクトマネジメントの歩みを学ぶことができ、大変好評でした。ツール作成面では、プロジェクトマネジメント向けに7件開発し、その内4件を公開しました。また、事例を5件収集し、レポートをnoteに公開しました。noteではコミュニティの活動を発信しており、2025年度は3,000件以上のアクセスがありました。さらに、8月にはオンラインイベントを、12月には初のリアルイベントを開催しました。



リアルイベントの様子

シニアコミュニティ

シニアが主体的に生きるための「社会」、「コミュニティ」を醸成し、日本の社会課題の解決に結びつけるための「語り場」や「実践の場」=サロンづくりを目指しました。

サロン1(いきがい発見・充実):メンバーのキャリア上の転機から、自身のキャリアに活かせる教訓を学びました。 サロン2(スキル探検・獲得):「プレゼン」・「終活」・「起業」など自身の得意なスキルを紹介し合い、リスリングのきっかけ作りができました。 サロン3(社会貢献チャレンジ):各自の社会貢献活動について発表し、組織運営のコツなどの共有ができました。また、有志によるプロジェクトとして「青少年のための科学の祭典」への出展、生成AIを活用した「多世代交流パターン・ランゲージの作成」なども行いました。



2026年9月 青少年のための科学の祭典での「タワーゲーム」によるPM体験会

COLUMN 西山 三成 地域コミュニティ 中国@広島WG

地域コミュニティの中国@広島WGにて立上げ当初から広島で活動しています。休会中の代表を代行し1年ほど経ち他地区と新たな出会いもできました。当WGも早いもので5年の月日が流れ某工場の見学とか地域の他業種の方々とも交流ができて、地方にいながらそれまでにない時間を過ごせています。2025年は新年会や花見、暑気払いとWGのみんなと定期的に集まる場を増やし、とても楽しい時間を過ごせました。2026年も同じく集まる機会をもうけて、勉強会やセミナーを企画したり、新しい出会いができればいいことを楽しみにしています。



各種セミナー

外部講師招請によるもの

月例セミナー

月例セミナー（2026年から「ディスカバリー セミナー」に改称）はセミナー・プログラムのメンバーが講師選定・折衝・準備・当日運営の全てを務めるもので、現場PMの方々が興味を持つ旬のテーマ・講師を選定しています。コロナ禍の2020年4月以降は全て完全リモートで実施していましたが、2024年からはリモート配信も担保しつつ対面でのセミナーを復活しました。

2025年の計6回の全てに参加された「皆勤賞」受賞者は10人にも上り、このような『月例ファン』の方々には、オープンバッジのほか日本支部ノベルティ、翌年の月例セミナー1回の無料参加権を差し上げています。

2020年度から採り入れているグラフィック・レコーディングは「振り返りに役立つ」との評価のほか、講師ご自身にも大変喜んでいただいています。各回のアンケートによるセミナーへの平均満足度は97%と2025年も高い評価をいただきました。

2025年の月例セミナー

講演月	テーマ	講演者	所属
2月 度	池上エリアリノベーションプロジェクトのこれまでとこれから	荻野 章太 氏	東急株式会社 文化・エンターテインメント事業部
4月 度	変わりゆく消防における管理職像 ～安全推進部設置を契機に～	中野 裕光 氏	東京消防庁 四谷消防署 警防課長
5月 度	“1Smile = 1Yen”という挑戦 :感情を定量化するプロジェクトデザイン	辻 早紀 氏	一般社団法人 One Smile Foundation 代表理事
6月 度	プロジェクトを成功に導くWBSの作り方 ～あなたはWBSをきちんと作れますか?～	初田 賢司 氏	青山学院大学 大学院 社会情報学研究所 プロジェクト教授
8月 度	プロジェクトを楽しむ ～創造性を引き出すチームづくりの実践～	今野 浩一 氏	PMコンサルティング ポジティブ・インテンション 代表
12月 度	コオロギを新たな食資源として普及させる挑戦 ～アカデミアでの研究からスタートアップの起業、そして破産まで～	渡邊 崇人 氏	国立大学法人 徳島大学 バイオイノベーション研究所 講師

グラフィック・レコーディングの例はこちら。

アジャイル研修

2025年のアジャイル研修は Zoom を使用して4月に「アジャイル基礎」をリモート開催しました。アジャイルプロジェクト成功の鍵となる「アジャイルのマインドセットを正しく理解すること」に焦点を当てています。また、アジャイルプロジェクトで採用例の多いスクラムのプロセスをワークショップで体験し、スクラムの基礎も理解していただけるようにしています。コース内での疑問だけでなく、受講者が日頃から持っている疑問・質問にもお答えできるようQ&Aタイムを十分に取っており好評をいただいています。今後も全国から受講いただけるようリモート開催を継続します。

転ばぬ先の杖、現場で使うためのリスク・マネジメント

リスク・マネジメント研究会は2025年7月に「転ばぬ先の杖、現場で使うためのリスク・マネジメント ～事例で学ぶ体験型セミナー～」を、日本支部セミナールームで対面式ワークショップとして開催しました。

リスク・マネジメントのプロセスを体系的に学べる講義と演習で構成された1日コースで、演習ではチームに分かれてリスクの特定、分析、対応計画におけるプロセスを疑似体験し、実践的なスキルを磨いていただきました。ワークショップ後の交流会も盛り上がり、ネットワーク作りに役立てていただきました。

ソーシャル・プロジェクトマネジメント研究会ワークショップ

2025年は9月に日本支部セミナールームで、株式会社ゴトーラボ 代表取締役 後藤洋平氏を講師としてお招きし「P譜実践ワークショップ ～向かっていきたい未来を言語化する～」を開催しました。参加者の皆さんには、未知の要素を多く含んだプロジェクトをどう進めたいかを考えるための表現技法である「P譜」を活用し、社会課題解決型プロジェクトの目指す姿や達成条件を整理・可視化するプロセスを体験いただきました。参加者からは「人それぞれで価値観が異なることを認識したうえで、意識あわせをしてプロジェクトを進めていくことが大事だと学んだ」などの感想をいただきました。

プログラムマネジメント実践ワークショップ

2025年は Zoom を使用して3月と9月にリモート開催しました。複雑さが増す社会の中で変革を実現するには単一のプロジェクトで対応できることは限られ、複数のプロジェクトを同時並行で行う必要があります。複数のプロジェクトを扱うことで不確実性は高まり、より高度なマネジメント手法であるプログラムマネジメントの重要性が改めて見直されています。

ワークショップではベネフィットマップなどのツールを用いて実践的なプログラムマネジメントを学んでいただきました。2026年も継続開催予定です。

ポートフォリオマネジメント実践ワークショップ

2025年は Zoom を使用して5月と11月にリモート開催しました。「プロジェクトがビジネスを牽引する時代」には「ポートフォリオマネジメント」が極めて重要です。経営戦略や経営計画に整合したプロジェクトの取捨選択、優先順位付け、目標設定などについて、ワークショップを通して実践的なスキルを磨いていただきました。さらに、組織においてポートフォリオマネジメントを浸透させ実践していくにあたっての課題について、ディスカッションを通じて解決のヒントを得ていただきました。2026年も継続開催予定です。

SDGs スタートアップセミナー

SDGs スタートアップ研究会は毎年春と秋に「SDGs スタートアップセミナー」を開催しています。2025年は3月に「SDGs プロジェクト推進の実践と課題解決型学習を通じたサステナブル人材の育成」を、9月に「サステナビリティを事業として行う『壁』の乗り越え方」をテーマに開催しました。

9月はゲスト講演者として石坂産業株式会社 三富今昔村 事業推進部 中村このみ氏をお招きし、「日本屈指の産業廃棄物の減量化・再資源化 98%を達成する石坂産業株式会社のサステナビリティ経営の軌跡」と題し、SDGs 実践の事例をご紹介いただきました。年々、SDGs に関するテーマは複雑度を増してきていますが、引き続きセミナー形式でSDGs プロジェクトに関連する話題を紹介していきたいと考えています。

理事・部会メンバーが講師を務めるもの

標準セミナー

不確実性が高まる社会の中で、プロジェクトマネジャーに求められるスキルと知識は、ますます高度化していきます。標準推進委員会では、次代を担うプロジェクトマネジャー向けに、先人の教えが凝縮されたプロジェクトマネジメント標準類を学習する機会として『標準セミナー』を定期的に開催しています。

セミナーでは、PMBOK®ガイド、プロセス群：実務ガイド、PMO 実務ガイド、プログラム、ポートフォリオ、PMCDF などの標準類の内容を、単に説明するだけでなく、ときにはマンガも交えて、いかに日本組織の実務に適用するかなどのアドバイスなども加え、経験豊富な講師陣がその専門分野における知識と経験を余すところなくみなさんに語りかけています。

こうした熱意と経験に基づいて構成された標準セミナーは、実務に直結する知識とスキルを体系的に学べる場として、2021年から累計8,000名超の方が受講し、高い評価をいただいています。

【2025年1月開催：PMI標準類】

●講師：金子 啓一郎氏



PMI の標準類や実務ガイドは、組織の成功に不可欠なフ

未来創造セミナー

未来創造セミナーでは、若年層のPMI 活動への興味関心・認知度向上を図るため、社会的影響力のある起業家や社会活動家、実務家を講師に迎えています。

2025年は、ターゲット層である若手世代の嗜好や関心事を踏まえ、世の中に新たな価値を提供し、社会的影響力のある講師を迎えたセミナーを2回開催しました。

①8月20日「最強の思考法 ～あなたの生涯年収を1億アップさせる～」：黒崎あい氏、②10月19日「マネジメントという視点を生活と仕事に取り入れる」：最上千佳子氏。

今後も幅広い業界・業種で活躍されている方を講師にお迎えしセミナーを開催していきます。

レームワークやツールと技法を提供しています。目まぐるしく変化するビジネス環境の中で、これらの標準類を活用し、必要なフレームワークやツール・技法を柔軟に迅速に組織に取り入れるかどうかは組織のパフォーマンスに大きな影響をもたらします。

【2025年2月開催 プロセス群：実務ガイド】

●講師：中谷 公巳氏



「プロセス群：実務ガイド」は、PMBOK®ガイド第6版のプロセスアプローチを基に、5つのプロセス群と49のプロセスを体系的に解説しています。このガイドは、アジャイル手法だけでなく、従来型のウォーターフォールやハイブリッドモデルにも対応しており、プロジェクトの現場で直面する多様な課題に応える実践的な知識を提供します。

【2025年3月開催：ポートフォリオ】

●講師：尾崎 能久氏、山川 高弘氏、門脇 浩希氏、松本 大成 氏

ヒト・モノ・カネには限りがある中でプロジェクトは複雑さや不確実性が増しており、貴重なリソースを投入しても必ずしも成功するわけではありません。そこでプロジェクトの取捨選択を体系的なアプローチで『何を行わないか』を決める、

各種セミナー



ポートフォリオマネジメントの考え方が極めて重要となっています。

【2025年4月開催 OPM (Organizational Project Management)】

●講師：池田 修一氏



プロジェクトマネジメントで発生する問題は、プロジェクトの選定、リソース不足など、組織に起因するものも多くあります。組織のプロジェクトマネジメントは、実務慣行とプロセスを適用し、整合性をとることにより、プロジェクト、プログラム、ポートフォリオマネジメントを用いて、組織の戦略目標を達成するための最適な支援を提供します。

【2025年9月開催 プロジェクト・マネジャー・コンピテンシー開発フレームワーク 第3版】

●講師：島谷 健也氏、大谷 克洋氏、坂尻 洋一氏、金子 啓一郎氏

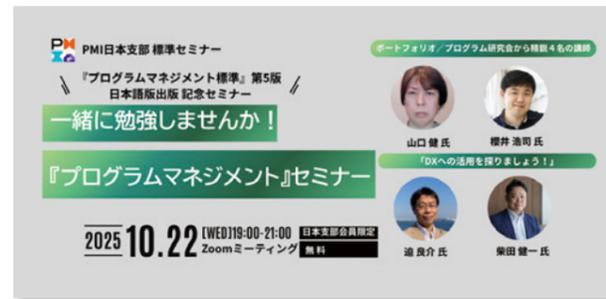


2020年に出版された『プロジェクト・マネジャー・コンピテンシー開発フレームワーク (PMCDフレームワーク)』第3版日本語訳の概要を解説し、PMCDフレームワークの現場での活用術を紹介。コンピテンシーとは「社会的な責任、義務を自覚した上での職務遂行能力」であり、PMCDフレー

ムワークはプロジェクトをリードする人材のコンピテンシーを定義・評価・および開発するための枠組みを提供します。

【2025年10月開催 プログラム】

●講師：山口 健氏、櫻井 浩司氏、迫 良介氏、柴田 健一氏



2024年に改訂され、2025年夏に日本語版がリリースされた『プログラムマネジメント標準』第5版を概説するとともに、複雑性・不確実性への対策として新たに追加された「原則」について研究会主催の勉強会から得られた知見を共有し、プログラムをマネジメントする上での課題をどのように扱い対処すべきかを、グループディスカッションを通じて現場で活かせるヒントを探りました。

【2025年12月開催 PMO実務ガイド】

●講師：西原 真仁氏



PMOは単なる管理機能から組織価値を生み出す戦略的中枢へと進化を求められています。本セミナーでは2025年2月に発行した『Project Management Offices: A Practice Guide』をもとに、効果的なPMO構築・運営のポイントをわかりやすく解説し、特に注目される「PMO Value Ring」を取り上げ、PMOがどのようにして価値を定義、測定、継続的に高めていくかを具体的に紹介しました。さらにPMOの活動を強化する「PMO Flywheel」の概念を解説し、戦略整合・人材能力・データ活用・成果検証を循環させる実践的なアプローチを示しました。

PMBOK® ガイド第7版セミナー 2025

2023年度に開講した本セミナーは、2025年度も継続して6月、10月の2回開催しました。原理原則ベースの「PMBOK® ガイド第7版」を講師自身の知見や経験を含んだ講義で受講者にわかりやすく伝え、各章のグループワークにて、内容の振り返り、今後の活用などをディスカッションする研修です。講義の内容をご自身の経験に照らし合わせて他のメンバーと対話していくことで、より深く考えるきっかけにいただくことが出来るため、大変好評をいただいています。

アンケートでは、「PMBOK®7ガイドを読んだだけでは理解しきれない内容が今回のセミナーを通して体系的に学べたことがとても有意義だった」、「これまでの知識の棚卸もまとめて行うとても良い機会になった」等のコメントをいただきました。

2025年は、新しい試みとして研修終了後、1時間程度の「ネットワーキング (懇親会)」の時間も設けました。受講者と講師がざっくばらんに自身の経験や悩みを語り合う有意義な時間になりました。参加者からは「仕事関係以外のネットワークができてよかった」等のコメントがあり、好評でした。

「PMBOK® ガイド第7版セミナー」は2023年から全7回開催しましたが、2025年10月の開催をもって終了しました。現在PMBOK® セミナープログラムでは「PMBOK® ガイド第8版セミナー」の開講に向けて準備を始めています。メンバー一同、よりよいセミナーをお届けするべく尽力しますのでご期待ください。



戦略的 PMO 実践ワークショップ

PMO 研究会では毎年「戦略的 PMO 実践ワークショップ」を企画・実施していますが、2025年は1月に「PMO がもたらすベネフィットとは？」をテーマにリモートにて開催しました。当ワークショップへの関心は非常に高く、参加受付開始から1週間で募集定員に達しました。

2025年はPMI本部から『Project Management Offices: A Practice Guide (PMO実務ガイド)』がリリースされるなど、企業が戦略的な取り組みを行う上で「PMO」は欠かせない存在となっています。これからも「PMO」を企業運営に活かすための枠組み「戦略的PMO」の活用方法について実践的なワークショップを提供していきます。

プロジェクトふりかえりワークショップ (あかね実践工房)

関西ブランチ プロジェクトマネジメント実践研究会主催で、2025年11月に京都光華女子大学において、関西地域の大学では初となる学生向けプロジェクトマネジメント実践ワークショップを実施しました。本ワークショップは、1年次生向け「プロジェクト基礎」の授業2コマ(計180分)を用いて行われ、大学祭での模擬店出店プロジェクトを題材に、プロジェクト完了後のふりかえりを通じてPMを実践的に学ぶことを目的としたものです。

ふりかえりの手法として、KPT (Keep・Problem・Try) を採用しました。PM初心者である学生が無理なく取り組めるよう、すべてのワークにおいてまず個人での検討を行い、その後チームでの検討・共有を行う流れを基本としています。ワークは三段階で構成し、最初はプロジェクト実行中の出来事を「うれしかった」、「つらかった」などの感情と結び付けて振り返り、KeepやProblemを整理。次に、それらの出来事を計画内容と照らし合わせながらPMの観点で捉え直し、課題の背景や要因を深掘りします。最後に、得られた気づきをもとに、次回に向けた改善策としてTryを検討し、チームごとにまとめて発表を行ってもらいました。

学生からは、プロジェクトを終えた後で立ち止まってふりかえることで、自分たちの行動や判断を客観的に見直せたこと、個人で考えた内容をチームで共有することで新たな視点や学びが得られたこと、チームワークやコミュニケーションの重要性を改めて実感したことなどの感想が多く聞かれました。

本取り組みは、学生にとってPMを実体験と結び付けて理解する貴重な機会となり、今後のPM教育における実践型学習の有効性を示すものとなりました。



各種セミナー

地域セミナー

地域セミナーは地域サービス委員会が主催し、首都圏以外で活動されているプロジェクトマネジメントに関わる会員の皆さまだけでなく、一般の方でも参加いただけるセミナーとして開催しています。

日本支部の部会・研究会の活動実績や当該地域における活動内容を広く知っていただくことを目的のひとつとして、2年前に立てた方針「地域内での自主運営、地域性のある独自テーマ」を継続しながら、会場開催を主体に実施しています。会場開催ならではの、参加者間、そして講師との対面といった深い交流ができるスタイルをとっています。

毎年3月頃から企画がスタートしますが、最初は第1部となる地域セミナー共有テーマの選定から始まります。2025年の第1部のテーマは下表のように2つ設定し、第2部に繋げやすいものを各地域にて1つ選択するものとしました。なお、日本支部から講師を派遣する形式は前年までと同じです。

テーマ	内容
AI	<p>「生成AI時代のPM進化論」～プロジェクトマネージャーはどこへ向かうのか?～</p> <p>講演概要: 生成AIの進化により、議事録作成やリスク検出などPM業務の一部が自動化されています。本講演ではPMIの最新分析を基に、PMとAIの関係を整理し、AIと共に設計・判断するPM像や必要なスキル、国際動向、キャリア形成の示唆を提示します。</p>
PMO	<p>「令和時代のPMOが目指すもの」</p> <p>講演概要: 令和時代のPMOには、変化に強く継続的に価値を生み出す力が求められます。本講演ではPMBOK®第7版とPMO Practice Guideを基に、成果志向型PMOへの進化とベネフィット・リアライゼーションによる価値強化を解説。PMO Flywheelを活用した戦略と実行の結び付け方、さらにサーバントリーダーシップによる新たな役割も考察します。</p>

第2部では、各地域の特色や運営の独自性を出せる形とし、ワークショップや地域内での活動成果を中心に地域担当者にて教材、シナリオ等を作成・運営しました。

地域	第2部タイトル
北海道WG	「ショートケースで体験する行政プロジェクトマネジメント」
東海・富士WG	「生成AIとリスクマネジメント - プロジェクト成功確率を高める生成AIとの協働」
中部ブランチ	「プログラムマネジメント標準 第5版の概要説明」
関西ブランチ	「具体と抽象 体験ワークショップ」
中国@広島WG	「SDGsカードゲームで考える地域課題解決」
九州WG	「The プロジェクトマネジメント」

ワークショップ形式や講演など、講師との自由闊達なディスカッションを含めて、参加者から変わらず高い支持を得ています。このセミナーをきっかけとして地域コミュニティ活動への参加に繋がっているケースもあり、地域活動のさらなる活性化を目指して、今後も継続して開催する予定です。各地域のボランティアメンバーは開催運営にも自信を持って準備に臨んでおり、全体司会、進行、第2部の講師役などでも活躍しています。セミナー終了後は講師、運営メンバー、受講者有志を交えた親睦会が恒例となっており、コミュニケーションをより深めています。

これらの運営については、地域単独で進めるのではなく、会場開催運営ノウハウの地域間共有（地域相互での応援）や自治体通信 (<https://www.jt-tsushin.jp/>) などの活用など、新たな取組も行い、受講者を順調に増やすことができました。

なお、中国@広島WGでは創立5周年の記念イベントとして「プロジェクトを成功に導くマイパーパス」と題したパネルディスカッションを同時開催しました。他の地域も節目の年には同様に拡大イベントを開催していきます。



広島での集合写真



北海道でのセミナーの様子

情報発信

ホームページ

ホームページは、日本支部の活動を支える重要な媒体です。

日本支部会員制度や研究会やコミュニティ活動、世界のプロジェクトマネジメント動向の紹介、アニュアルレポートやニュースレターの掲載、各種セミナーやイベントの告知や開催後の報告、日本支部会員・法人スポンサー組織向け専用ページなど、さまざまな情報発信に活用しています。

注目度・閲覧数が多いことから、バナー設置による企業広告や関係団体のイベント告知にも活用いただいています。

ターゲットを絞ってタイムリーな情報を提供するFacebookページや動画でプロジェクトマネジメントを詳述するYouTubeページと連携させ、会員をはじめとしたステークホルダーの方々に有効に活用いただいています。

なお、支部会員の皆さまには支部会員専用ページから『PMBOK®ガイド第7版』、『プロセス群:実務ガイド』および、『プログラムマネジメント標準第5版』の日本語版PDFを無料ダウンロードできるサービスや、PMI®標準の解説動画などを提供しています。



ニュースレター

ニュースレターは春夏秋冬の季刊となっており、日本支部のイベント報告のほか、理事紹介、部会活動紹介、新規加入された法人スポンサー様の自社紹介、プロジェクトマネジメントの世界で顕著な活動をされている方からの投稿記事、その他ファクトデータ (PMI 関連有資格者数、日本支部会員



数、法人スポンサー企業名、理事名簿 他)などを、pdf雑誌形式で掲載しているものです。

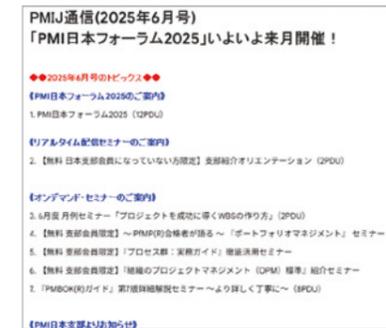
また、日本フォーラム、Japan Festaの開催結果報告や、40にも上る部会活動・法人スポンサースタディー・グループの活動状況など、ホームページでは表しきれない内容を網羅しています。

メールマガジン (PMIJ 通信、グローバルトレンド)

日本支部の定期配信メールマガジンには、「PMIJ 通信」と「PMIJ 発 グローバルトレンド」があります。配信頻度はそれぞれ1回/月で、約1万7千人 (PMP® 資格保持者や本部・支部会員など、日本支部からのメールマガジンの配信を承諾いただいた方) および、120社にのぼる法人スポンサーの窓口ご担当の方々にに対して情報を配信するサービスです。HTML形式にも対応しており、見やすく読みやすい内容となっています。

「PMIJ 通信」は日本支部主催の各種セミナーやイベントの開催、新刊書籍の割引販売、PMP 試験要領の変更、翻訳記事掲載など、さまざまな情報について、当該ホームページを参照いただくようご案内しています。2021年9月に配信開始した「PMIJ 発 グローバルトレンド」は累計50号を越え、PMI 本部のさまざまなサイトやPMI、プロジェクトに関する海外サイトをご紹介します。毎月10日にお送りしており好評をいただいています。

また、研修・セミナーなど個別の案内は数回/週のペースで個別に配信しており、日本支部会員、プロジェクトマネージャー、法人スポンサー社員の方々にとって極めて重要な情報入手ツールとなっています。



PMIJ 通信



グローバルトレンド

マンガの活用

PMBOK®ガイドなどのPMI標準の普及を目的に、マンガを活用したWebページ(LP)『マンガで学ぶプロジェクトマネジメント』を設け、メール配信で読者を誘導しています。マンガによる短時間動画も加え、若い世代にも訴求できる取組みを開拓しています。2025年度は5話分を制作し、第12話(ビジネスアナリシス編)から第15話(リスク編)まで計4話をリリースしました。



Facebook ページ

ソーシャルメディアによる情報発信源としてFacebookページを活用しています。

日本支部Webサイトに掲示された「イベント」や「お知らせ」など最新情報の展開だけでなく、PMI本部から発信される情報などもご紹介しています。

2025年も利用者の皆さまの「いいね!」で、プロジェクトマネジメントに興味をもたれている、より多くの方に最新情報をお届けすることができました。



YouTube

ソーシャルメディアによる情報発信源としてYouTubeも活用しています。

「マンガで学ぶプロジェクトマネジメント」をはじめ、「女性コミュニティのインタビュー動画」、「短時間でプロジェクトマネジメントを学べる映像教材」などの動画を公開しています。



プロジェクトマネジメント研究報告 (PM研究報告)

日本支部では、支部会員や法人スポンサー、アカデミックスポンサーに所属する実務家・研究者の知見を広く社会へ還元することを目的に、「プロジェクトマネジメント研究報告 (PM研究報告)」の発行を継続的に行っています。本活動は、実務に基づいたPMの標準やフレームワークの活用事例、および支部内研究会等の活動成果を体系的に取りまとめ、広く情報発信する重要なプラットフォームとなっています。

本報告書は、2022年のJ-Stage上での公開以来、世界中から11万回を超えるアクセス(2025/9時点)を記録しており、PMの専門家コミュニティにおいて高い関心と信頼を集める資料として定着しています。この参照回数の多さは、実務に即した知見への需要を裏付けると同時に、産官学の垣根を越えたPM知見の普及に本活動が大きく寄与していることを示しています。

現在、次号となる「PM研究報告2026 Vol.6」の制作を鋭意進めています。本誌は2026年3月に公開を予定しており、今回も厳正なプロセスを経て選定された、質の高い知見が網羅される見込みです。

本活動を通じて蓄積された研究成果は、企業・団体間の協働や産学連携における「シーズ(種)」として活用されることを目指しています。今後も日本支部は、専門家同士が経験を分かち合い、プロジェクトマネジメントの価値を社会全体へ波及させていくための情報発信を強化していきます。

なお、過去のバックナンバーを含む詳細については、以下の公式ページよりご覧いただけます。

●プロジェクトマネジメント研究報告 (PM研究報告) 公式ページ
<https://www.pmi-japan.org/kyoikukokusai/news/pmrr/>



出版書籍

日本支部のオンラインショップでは、『プロジェクトマネジメント知識体系ガイドPMBOK®ガイド第7版』をはじめとするPMI®標準の日本語訳や、PMP®受験やPMスキルの向上に役立つ書籍を販売しています。

URL: <https://www.pmi-japan.shop>

『プログラムマネジメント標準』第5版



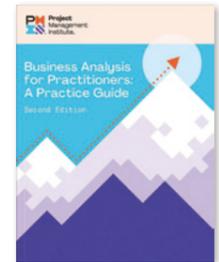
著者：PMI
 発行：PMI日本支部
 書籍の発売日：2025年7月28日
 電子書籍 (Kindle版) の発売日：2025年8月27日

複雑さが増す社会の中で、単一のプロジェクトで価値を実現できることは限られ、組織は複数のプロジェクトを統合的にマネジメントし、戦略を実現することが求められています。複数のプロジェクトを扱うことで不確実性が高まり、より高度なマネジメント手法であるプログラムマネジメントの重要性が見直されています。『プログラムマネジメント標準』第5版は、プログラムマネジメントの実務慣行とトレンドの枠内で行動の指針となる八つの原理・原則と、プログラムマネジメントの六つのパフォーマンス領域を特定しています。プログラムマネジメントに携わる誰もが、明確で包括的かつ当を得た情報を得て、実務慣行の改善につなげることのできる一冊です。

電子書籍 (Kindle版) はこちらのサイトからお求めできます。
<https://www.amazon.co.jp/dp/B0FNJ19VG5>

現在準備中のPMI標準本

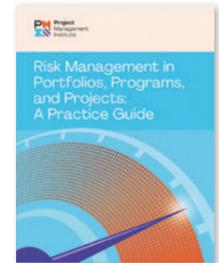
『ビジネスアナリシス:実務ガイド』第2版



著者：PMI
 発行：PMI
 発行時期：2026年2月予定

本書は、ビジネス分析を専門的かつ日常的な活動に取り入れやすくし、問題解決にビジネス分析スキルを応用する手助けをします。成功につながるビジネス分析の背景、環境、実践手法を学びます。この考え方を採用することで、ビジネス分析業務の中核である疑問を投げかける姿勢、学習意欲、解決策の選択肢に対する柔軟性を育むことができます。

『ポートフォリオ、プログラム、プロジェクトにおけるリスク・マネジメント:実務ガイド』

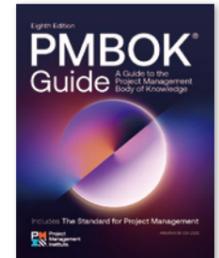


著者：PMI
 発行：PMI
 発行時期：2026年第4四半期予定

本書は、あらゆる組織形態においてポートフォリオ、プログラム、プロジェクト環境でリスク・マネジメント技術、ツール、プロセス、および優良事例を適用する実務者向けの情報を含んでいます。また、PMI-RMP®試験対策に不可欠であり、以下の理由から重要です：

- リスク・マネジメントの中核原則を特定し詳述する・ポートフォリオ、プログラム、プロジェクト環境におけるリスク・マネジメントの基礎をそれぞれ説明する
- リスク・マネジメント・ライフサイクルを定義する・事例と実践的なケーススタディを用いて、企業リスク・マネジメント (ERM) アプローチの文脈において、各ポートフォリオ、プログラム、プロジェクトマネジメントのパフォーマンス領域にリスク・マネジメント原則を適用する
- ポートフォリオ、プログラム、プロジェクトマネジメント計画の実行中にリスク・マネジメント技術、ツール、プロセス、ベストプラクティスを適用する実務者向けの情報を含む

『PMBOK®ガイド』第8版



著者：PMI
 発行：PMI
 発行時期：未定

プロジェクトマネジメント知識体系ガイド (PMBOK®ガイド) 第8版およびプロジェクトマネジメント標準は、ガイドの歴史上最もデータ駆動型かつコミュニティの知見を反映した更新版です。広範なグローバル調査と実務者協働を通じて開発され、数千人のプロジェクト専門家からの意見と48,000以上のデータポイントを反映しています。

PMIの長年にわたる実績を基盤としつつ、第8版は第7版の原則とパフォーマンス領域の基盤を維持しながら、より実践的な形に簡素化・明確化。現代のプロジェクトマネジメントの実践を反映するため、マインドセット、技術的、実践的ガイダンスを融合させています。主な内容は以下の通り：

- 効果的なプロジェクトマネジメント行動に影響を与える6つの核心原則
- 実践の主要領域を表す7つのパフォーマンス領域
- AI、PMO、調達に関する内容の拡充、および進化した非指示的な手法で再提示されたプロセスガイダンス

貸借対照表

令和7年12月31日現在

(単位: 円)

資産の部		負債の部	
科目	金額	科目	金額
【流動資産】	229,762,107	【流動負債】	30,444,560
現金及び預金	208,750,208	買掛金	3,934,511
売掛金	2,294,856	未払費用	6,150,341
商品	2,119,213	未払法人税等	97,400
貯蔵品	241,385	未払消費税等	556,400
未収入金	16,269,718	前受金	18,479,930
仮払金	55,600	預り金	1,225,978
前払金	31,127	負債の部合計	30,444,560
【固定資産】	4,767,784	純資産の部	
【有形固定資産】	992,709	【株主資本】	204,085,331
建物附属設備	992,698	基金	55,000,000
工具器具備品	11	利益剰余金	149,085,331
【無形固定資産】	1,073,635	その他利益剰余金	149,085,331
電話加入権	37,600	繰越利益剰余金	149,085,331
ソフトウェア	1,036,035		
【投資その他の資産】	2,701,440		
敷金	2,701,440	純資産の部合計	204,085,331
資産の部合計	234,529,891	負債及び純資産合計	234,529,891

損益計算書

自 令和 7年 1月 1日
至 令和 7年12月31日

(単位: 円)

科目	金額
【売上高】	
売上高	105,436,206
売上高合計	54,696,935
【売上原価】	
期首商品棚卸高	1,254,583
書籍関連原価	13,958,360
セミナー関連原価	10,981,926
その他原価	10,950,983
合計	37,145,852
期末商品棚卸高	2,119,213
売上原価	
売上総利益	35,026,639
	125,106,502
【販売費及び一般管理費】	
販売費及び一般管理費合計	100,864,348
営業利益	24,242,154
【営業外収益】	
受取利息	289,598
雑収入	51,516
営業外収益合計	341,114
【営業外費用】	
雑損失	1,582,669
営業外費用合計	1,582,669
経常利益	23,000,599
【特別損失】	
寄付金(特別損失)	1,914,800
特別損失合計	1,914,800
税引前当期純利益	21,085,799
法人税・住民税及び事業税	5,776,148
当期純利益	15,309,651

2025年12月31日現在

名前/役職	所属	名前/役職	所属
端山 毅 会長	株式会社 NTT データグループ 技術革新統括本部 テクノロジストラテジ スト、博士(工学)、PMP	水井 悦子 理事	エンパワー・コンサルティング株式会社 代表取締役社長
麻生 重樹 副会長	日本電気株式会社 プロジェクト&クオリティマネジメント統括部 プロフェッショナルPMO	山本 智子 理事	川崎医療福祉大学 非常勤講師
奥澤 薫 副会長	KOLABO 代表	除村 健俊 理事	サイバー大学 IT総合学部 教授
中村 亜子 副会長	株式会社パーソル総合研究所 シニア・コンサルタント	片江 有利 監事	株式会社システムコストマネジメント 顧問
藤井 新吾 副会長	モバイルコンピューティング推進コンソー シアム 人材育成委員会 講師ワーキング長	三嶋 良武 監事	エム・アール・アイリサーチアソシエイツ 株式会社 品質保証部 主席専門研究員
森田 公至 副会長	DXC テクノロジー・ジャパン株式会社 クライアント・デリバリー統括本部長	山中 良文 監事	自営業者
稲葉 涼太 理事	TIS株式会社 エキスパート 一般社団法人IIBA日本支部 理事	池田 修一 アドバイザー	株式会社ポジティブ・ラーニング 代表取締役社長
井上 雅裕 理事	大正大学 教授 芝浦工業大学 名誉教授	伊藤 衡 アドバイザー	京都工芸繊維大学大学院 立命館アジア太平洋大学 非常勤講師
浦田 有佳里 理事	国立研究開発法人情報通信研究機構 サイバーセキュリティ研究所 ナショナルサイバートレーニングセンター サイバートレーニング研究室	井奈波 誠 アドバイザー	JBCC株式会社 サービス推進 発注管理G
小川原 陽子 理事	日本アイ・ピー・エム株式会社 ソーシャル・エンタープライズ&ライフ事業部 アソシエイト パートナー	神庭 弘年 アドバイザー	神庭PM研究所 所長
奥田 智洋 理事	株式会社アイ・ティ・イノベーション DX推進西日本グループ プロデューサー	木下 雅裕 アドバイザー	アクセントチュア株式会社 金融サービス本部
鬼束 孝則 理事	Ridgelinez株式会社 テクノロジーグループ 執行役員パートナー	鈴木 安而 アドバイザー	PMアソシエイツ株式会社 代表取締役
金子 啓一郎 理事	プロジェクト・ピープル・パフォーマンス 研究所 代表	高橋 正憲 アドバイザー	PMプロ有限公司 代表取締役
アンリ 近藤 理事	東京エレクトロン株式会社 ビズフォリオ合同会社	当麻 哲哉 アドバイザー	慶應義塾大学大学院 システムデザイン・マネジメント研究科 教授
斉藤 学 理事	スカイライトコンサルティング株式会社 ソーシャルイノベーションラボ シニアマネージャー	中嶋 秀隆 アドバイザー	プラネット株式会社 コンサルタント
坂上 慶子 理事	株式会社 日立アカデミー プロジェクトマネジメント統括マネージャー	福本 伸昭 アドバイザー	株式会社ピーエスシー 東日本事業本部 執行役員 株式会社九州フィナンシャルグループ 社外取締役
杉原 秀保 理事	ニッセイ情報テクノロジー株式会社 主席コンサルタント	米澤 徹也 アドバイザー	あすか技術士事務所 代表
羽佐間 一潮 理事	特定非営利活動法人 日本プロジェクトマネ ジメント協会 (PMAJ) かんぽシステムソリューションズ株式会社 総括補佐役 Tide ONE株式会社 代表取締役社長社長	渡辺 哲也 アドバイザー	株式会社日立アカデミー L&D第一部 主管インストラクター
藤原 慎 理事	株式会社 NTT データ先端技術 取締役執 行役員 CISO CCO セキュリティ&テクノロジーコンサルティング 事業本部長	渡辺 善子 アドバイザー	JBCCホールディングス株式会社 社外取締役 国立大学法人 東京海洋大学 理事 一般財団法人日本情報経済社会推進協会 理事
松本 弘明 理事	株式会社ローソン銀行 IT戦略統括役員		

スポンサー一覧

法人スポンサー（120社）

（五十音順）

アイアンドエルソフトウェア株式会社	TIS株式会社
アイエックス・ナレッジ株式会社	DXCテクノロジージャパン株式会社
アイシンク株式会社	テクノシステム株式会社
株式会社アイ・ティ・イノベーション	テルモ株式会社
株式会社ITブレナーズジャパン・アジアパシフィック	東芝インフォメーションシステムズ株式会社
株式会社アイテック	株式会社東レシステムセンター
株式会社アイ・ラーニング	TOPPAN エッジ株式会社
AKKODiS コンサルティング株式会社	株式会社トヨタシステムズ
Asana Japan 株式会社	株式会社TRADECREATE
アドソル日進株式会社	日揮グローバル株式会社
アベールソリューションズ株式会社	ニッセイ情報テクノロジー株式会社
イノベーションフレームワークテクノロジー・ブラスウェア株式会社	日鉄ソリューションズ株式会社
伊藤忠テクノソリューションズ株式会社	日本電気株式会社
株式会社インテージテクノスフィア	日本アイ・ピー・エム株式会社
株式会社インテック	日本アイ・ピー・エムデジタルサービス株式会社
INTLOOP 株式会社	株式会社日本ウィルテックソリューション
株式会社エイジレス	日本自動化開発株式会社
株式会社エクサ	日本情報通信株式会社
エス・エー・エス株式会社	日本電子計算株式会社
株式会社SCC	日本ビジネスシステムズ株式会社
SCSK 株式会社	日本ビューレット・パカード合同会社
SBテクノロジー株式会社	日本プロセス株式会社
株式会社エヌ・ティ・ティ・データ CCS	ネットワンシステムズ株式会社
NECソリューションイノベータ株式会社	株式会社野村総合研究所
株式会社NSD	株式会社パーソル総合研究所
NCS&A 株式会社	株式会社パスコ
株式会社NTTデータ アイ	株式会社ビーエスシー
株式会社NTTデータグループ	PMアソシエイツ株式会社
株式会社NTTデータ・ニューソン	株式会社PE-BANK
株式会社エヌ・ティ・ティ・データ・フロンティア	ビジネスエンジニアリング株式会社
株式会社エヌ・ティ・ティ・データ・ユニバーシティ	ビジネステクノクラフツ株式会社
MS&ADシステムズ株式会社	株式会社日立アカデミー
株式会社 MSOL Digital	株式会社日立産業制御ソリューションズ
株式会社エル・ティール・エス	株式会社日立システムズ
株式会社オーシャン・コンサルティング	株式会社日立社会情報サービス
株式会社大塚商会	株式会社日立製作所
キーウェアソリューションズ株式会社	株式会社日立ソリューションズ
キヤノン株式会社	BIPROGY 株式会社
キヤノンITソリューションズ株式会社	株式会社ヒューマンテクノシステム
キンドリルジャパン株式会社	ファインディ株式会社
キンドリルジャパン・テクノロジーサービス株式会社	富士フィルムビジネスイノベーションジャパン株式会社
クオリカ株式会社	富士電機株式会社
株式会社クレスコ	フラッグス株式会社
KDDI 株式会社	ブラネット株式会社
株式会社神戸製鋼所	株式会社マネジメントソリューションズ
コベルコシステム株式会社	三菱総研DCS株式会社
サイフォーマ株式会社	株式会社三菱総合研究所
JFEシステムズ株式会社	三菱電機株式会社
株式会社JQ	三菱電機エンジニアリング株式会社
株式会社JSOL	三菱電機ソフトウェア株式会社
JBCC 株式会社	明治安田システム・テクノロジー株式会社
株式会社システムインテグレータ	ベルノックス株式会社
株式会社システム情報	ラーニング・ツリー・インターナショナル株式会社
システムスクエア株式会社	株式会社ラック
情報技術開発株式会社	株式会社リクルート
Smartsheet Japan 株式会社	株式会社リコー
住友電工情報システム株式会社	リコージャパン株式会社
ソニーセミコンダクタソリューションズ株式会社	ロジスティードソリューションズ株式会社
SOMPOシステムズ株式会社	株式会社ワコム
大日本印刷株式会社	株式会社ワールドフェイス

2025年12月31日現在

アカデミック・スポンサー（56組織）

（五十音順）

青山学院大学 国際マネジメント研究科
明石工業高等専門学校 建築学科大塚研究室
江戸川大学 メディアコミュニケーション学部情報文化学科
愛媛大学 教育・学生支援機構学生支援センター 丸山智子研究室
愛媛大学工学部および大学院理工学研究科工学系
国立大学法人愛媛大学デジタル情報人材育成機構
公立大学法人大阪 国際基幹教育機構 高度人材育成推進センター
大阪経済大学 国際共創学部
大阪大学大学院 工学研究科 ビジネスエンジニアリング専攻
岡山大学 教育研究プログラム戦略本部 戦略的プログラム支援ユニット(URA)
香川大学大学院 地域マネジメント研究科 中村研究室
鹿児島大学 産学・地域共創センター
学校法人 角川ドワンゴ学園 経験学習部
金沢工業大学
川崎医療福祉大学 医療福祉マネジメント学部 医療秘書学科および大学院医療秘書学専攻
京都光華女子大学
群馬工業高等専門学校 中島研究室
京都工芸繊維大学 ものづくり教育研究センター
慶應義塾大学 大学院システムデザイン・マネジメント研究科
慶應義塾大学 理工学部 管理工学科 飯島研究室
地方独立行政法人 神戸市民病院機構 神戸市立神戸アイセンター病院 研究センター
神戸女子大学 家政学部家政学科
公立大学法人 公立はこだて未来大学
サイバー大学
札幌学院大学
サレジオ工業高等専門学校 一般教育科 物理教育学研究室
産業技術大学院大学
芝浦工業大学
就実大学 経営学部 経営学科
国立高等専門学校機構 仙台高等専門学校
第一工科大学 東京上野キャンパス
大正大学
千葉工業大学 社会システム科学部 プロジェクトマネジメント学科
中央大学 国際情報学部
中京大学 経営学部 齊藤毅研究室
中京大学 情報センター
筑波大学大学院 システム情報工学研究科 コンピュータサイエンス専攻
国立大学法人東海国立大学機構名古屋大学医学部附属病院メディカルITセンター
東京工科大学 コンピュータサイエンス学部 サービスシステムデザイン研究室
東京都立王子総合高等学校
東京理科大学 経営学部 国際デザイン経営学科 森本研究室
名古屋工業大学 社会学科 経営システム分野 濱口研究室
奈良工業高等専門学校 竹原研究室
日本経済大学 大学院経営学研究科
国立高等専門学校機構 八戸工業高等専門学校
広島修道大学 経済科学部
公立大学法人 広島市立大学 大学院情報科学研究科
福岡工業大学 情報工学部システムマネジメント学科
法政大学専門職大学院 イノベーション・マネジメント研究科
北海道大学大学院 情報科学研究科
文京学院大学 ヒューマン・データサイエンス学部
独立行政法人 国立高等専門学校機構 舞鶴工業高等専門学校
松山大学
山口大学 工学部知能情報工学科
山口大学大学院 技術経営研究科
国立研究開発法人 理化学研究所 生命機能科学研究センター
早稲田大学ビジネススクール
早稲田大学 理工学術院 基幹理工学部 情報理工学科

行政スポンサー（4組織）

滋賀県大津市 市民部
広島県 総務局 県庁情報システム担当
広島県福山市役所
三重県桑名市